古流
生花

家元松應齋家松應會記

始

11-477

古流
生花

家元松應齋家松應會記

内務 寄贈本

大正
10.8.10
寄贈

松應會之成立

明治四十五年二月十五日戸川玉川梶川佐藤早出池上島田ノ数氏ト郭不思池畔家元千羽家ニ會合故理学先生門人並ニ同社中ヨリ出ル同好有連月初旬七日千羽家ニ集合シテ生花研究旁懇親ヲ和スルヲ以テ其ノ主旨トスルコトニ定メ會名ヲ松應會ト名称シ茲ニ本会ノ成立ヲ遂ゲタ

例會

本會成立後例會至極圓満ニ行ハレ大正五年三月ニ至ルマデノ間会記ナキニ非ズ蓋シ記ヲ欠ケ初

傳書 新成 改作 建議附 折紙家元系譜ノ

大正四年暮花友會廓清、声島田理鶴吉岡理秀二氏ニヨリテ放タレ同志ノ南行北馳殆ト身命ヲ堵スル底ノ大論爭アリテ後漸クノ議纏リ（五月春衣更着ノ頃）松應齋松盛齋松藤齋ノ家元ニ家擁立トナリ會長役員ノ制革リ水村理筱ノ会憲起草トナリテ三月十九日古流花友會会則ノ発表施行トナリ更々感謝狀ノ授受等アリテ花友会廓清ノ大勢誠モ茲ニ芽出度ク大團圓トナルヤ次デ島田理鶴水村理筱二氏ニヨリ晴天霹靂的一大建議アリ其ノ説明ニ曰ク

今ヤ花友會ノ大改革トナリテ家元ニ家ノ擁立トナリ會長役員ノ制革リテ漸リナク会憲ノ布カルヽニ至リシハ吾人ノ頗ル快トスル彼ナリ然リト雖モ我ガ花道界ノ將来ヲ考慮スル時ハ吾人ハ不幸ニシテ未ダ古流生花界ノ天下泰平ヲ謳歌スル雅懷ナリ迚テ須臾モ席温マヽノ感之レアラザルハ甚ダ遺憾ナリ之レ太ダ不祥ノ言ニ似メリト雖モ衰心杞憂ニ堪エザルモノ之レアルナリ以テ柳ニ我ガ生花家ガ彼ノ茶家ヨリ又世ノ識者ヨリ動モスレバ蔑視嘲笑ノ態度ヲ以テ迎ヘラルヽ所以ノモノハ何ガ為メニシテ然ルヤトノ点ニ一度ビ想到セバ蓋シ思ヒ半バニ過グルモノ之レアルベク何人ト雖不問ニ付スベカラザルヲ

知ルベシ而シテ此ノ悲ムベキ現象ヲ呈スル所以ノモノ蓋シ多々之レアルベシト雖我ガ生花家ハ所謂生花家ニシテ其ノ本ヲ知ラズ換言セバ生花ハ能ク之ヲ知ルト雖之ヲ如何ニシテ飾ルベキカノ傳書ノ家元ニナキ是レ其ノ一因トスベシ更ニ現行クレツアル傳書ニ至ツテハ特傳書字句ニ誤脱錯簡具極達シテ意義通ゼズ読ミ堪エザラシメノ一見眼ヲ覆フモノアルニ拘ラズ接受共ニ是リ知ラザルカ庸々タリ之ガ我ガ傳書ナリト授受互ニ得々タルガ如キ是レ其ノ二因タリト信ジ以テ其ダ遺憾トスル所実ニ十年ノ久シキニ及ベリ依テ惟フニ古ヨリ家元ニハ師範代會頭ノ名アリト雖未ダ之ニ副フ一物ノ之レアラザルヲ幸ヒ之ガ傳書ノ新成改作ニ以テ古流ノ面目ヲ一新スルニ如カズト則チ永村理筱意ヲ決シテ自家及ビ知己ノ藏書句論帝國図書館其ノ他ノ図書凡ソ壹千餘卷三百餘種ノ茶書及ビ之ニ関聯セル凡ユル図書名著並ニ花書ヲ參考閲読シテ師範師範代会頭ノ三傳ヲ著シ更ニ心得之巻ヨリ皆傳至ル傳書ノ改作ヲ行ヒ両人密カニ様ノ別本ヲ待チツツアリシガ時ハ来リ花友会ノ大改革ヨリ家元三家ノ擁立ナリメルヲ機トシ流儀ノ統一ヲ勿論家元三家ノ統一ヲ謀リ以テ擁立擁護ヲ期スルハ流儀ノ主脳骨髓タル傳書ヲ以テスルニ如カズト爲シ之ヲ建儀シテ重役諸公ノ賛否ヲ問カレト欲スル仮ナリ而シテ又勢ヒノ赴ク仮自ラ折紙ノ改作ヲモ断行セザルベカラズ

其生花家ニシテ流祖ノ何人ニシテ我ガ系統如何ヲ知
シルモノニ至ルマテハ蓋シ指ヲ屈スルニ止マルベシ是花人
トシテノ恥辱ナルノミナラズ流儀ニ対シテ忠実ナラズ又
流儀ノ向上發展ヲ策スル所以ニアラズ宜シク家元系譜
ノ編纂ヲ図ルベシ是レ本建議ヲ以テ斯道ニ対スル吾人
ノ義務責任ナリト而人交々陳説ス。
更ニ水村氏ハ其ノ脱稿セル師範相傳抄ノ草稿ヲ示シテ
同覧ニ供シ其ノ壹千餘卷三百餘種ノ巻子書目ヲ
示シテ唯ガ此レ斯ノ結晶ノミト説破シ去ル次デ島田
氏ノ日ク本ヒシテ諸公ノ賛成ヲ得ルニアラバ傳書ハ書
風嘯峨式ハ冷泉風トシテ純良ナル和紙ニ石版印刷
トナシ之ヲ和綴トシテ巻物モ亦之ニ倣ヒ装幀ヲシテ極

メテ韻雅ナラシムベシ而シテ又水村氏ハ一切無償ヲ以テ
之ノ家元ニ提供スルノ説アリシモ斯クテハ家元專横ト
ナリ延テハ新成改作ノ本旨即チ三家ノ統一ニシテ面目ヲ
新ニスルト同時ニ價額モ亦至廉ニシテ廣ク所属門下ニ
頒布シテ以テ流儀ノ発展向上ヲ図ルノ本旨ニ背反ス
ルヿナシトモ限ルベカラズ則チ斯ノ意味ニ於テ傳書ハ到
底家元ノミノ布帰セシムベカラザルハ勿論大ニ之ヲ保
護セザル可カラザルト共ニ新成改作ノ本旨ト称ハシムル
ノ必要上一定ノ誓約下ニ寧ロ多数ヲ著作者トスルノ
妥當ナルニハ如カズト其ノ犠牲的精神ニ出デテ断ジテ私
利私欲ニ依テ成レル所以ニアラザルヲ説述ス。
斯ニ於テ諸公ハ異議ナリ賛意ヲ表シ戸川老ハ賛意ヲ表

ニて此ハ至極結構ノナレトモ寧ロ松應斎家ニ於テノミ
為スヲ可ナラズヤ交渉ニ及ンデ忽チニシテ両家ノ容ル、
所トナラズ事甚ナリト雖モ困難ナル思フベキナリトノ説ア
リ依テ両家ハ交渉話否ハ之ヲ別トシ松応斎家ニ於テハ
直ニ建議断行スルヿヲ議決ス

大正五年四月七日

松應斎家元　戸川理巳　玉川理調　梶川理仙　佐藤理寶

以上九名列席一致決議散會午後十時ヲ報ズ

早出理　池上理　島田理　秋谷理　鶴理　水村理　綾

誓約調印集會

四月七日松應斎家重役会議ニ於テハ決議ニ基キ島田理
鶴氏ヲシテ松盛斎松藤斎両家ニ交渉ヲ重ネラレタル
結果両家亦漸ク賛意ヲ表シタルヲ以テ一日理調玉川家ニ
于保右同相会シ夫々方針ヲ定メル筈アリ次デ三家各々
保護著作者ノ人選ヲ行ヒ五月一日ヲ以テ発会例會

場タル外神田福田屋ニ集会シ島田理鶴木村理筱二氏起チテ其ノ茲ニ至リシ所以ノ道程及ビ斯道ノ改書発達ヲ念トスル外更ニ他意アルニ非ザルヨリ詳説シ文ヨリ誓約書ヲ作製シテ之ニ自署調印ヲ求メ之ニ依リテ三家ノ統一芽出度ク茲ニ成就シ畢ヌ、自署調印ノ誓約書次ノ如シ

誓約書

本誓約書ハ宗元三家ノ名ヲ以テ発行スル目録所載ノ傳書系譜ニ就テ誓約調印シタル上ノ如シ但シ著作発行ノ本旨ヲ遂行シ能ハザルニ至リタル時ハ本誓約ハ最初ヨリ存在セザリシ者トシテ反故タルモノトス即チ著者ノ有ニ帰スルモノトス

一目録所載傳書系譜ハ之ヲ非賣品トシ宗元三家ヲ各所属門下ニ頒タルモノトス

一本誓約者ハ目録書載ノ傳書系譜ニ著作者トシテ所定ノ奥附ヲ附ザルモノトス

一如何ナル事由ヲ以テスルモ本誓約者以上ニ人員ヲ増加スハ可ラザルモノトス

一本誓約者ハ宗元タルト否トニ拘ラズ著作発行ノ本旨ニ戻ルノ所為アルトキハ傳書系譜ノ奥附ヨリ其ノ氏名ヲ削除スルモノトス但シ之ニ対シテハ何等ノ苦情要求等ヲナシ得ザルモノトス

一前項ノ事由ニヨリテ氏名ノ削除アリタル中ハ其所属家元ニ於テ人選補欠スルヲ妨ゲザルモノトス但シ人選ニ関リ

タル者ハ其時ヨリ本誓約書ニ依ルベキモノトス。

一 本誓約者ハ同意ナクシテ才三者ヲシテ後継者タラシメ又ハ権利ノ譲渡ヲナスコヲ得ザルモノトス但シ同意ヲ得タル後継者又ハ譲受者ハ前項但書ニヨルベキモノトス。

本誓約書ハ六通ヲ作製シ家元三家他三名ニ於テ各壹通ヲ所持スルモノトス。

大正五年五月一日

目録

一 古流生花師範相傳抄
一 古流生花師範代相傳抄
一 古流生花会頭相傳抄
一 古流生花心得抄
一 古流生花初傳口訣抄
一 古流生花中傳口訣抄
一 古流生花奥傳口訣抄
一 古流生花皆傳口訣抄

一 古流生花家元系譜

以上

著者 水村勉印

誓約者 千羽理君印　誓約者 山本理吟印
仝 池田理英印　仝 戸川理正印
仝 玉川理調印　仝 松井理玉印
仝 梶川理仙印　仝 島田理鶴印
仝 池上理谷印　仝 関理葉印
仝 吉岡理秀印　仝 佐藤理宝印
仝 相馬理國印　仝 影山理静印
仝 換岡理章印　仝 樋口理泰印
仝 青山理郁印　仝 山口理豊印
仝 大沢理富印　仝 幸住理峰印

欠席者　松村理郎君　欠席者　天野理志君
　　櫻井理條君　　　　阿部理吉君
　　山田理之君　　　　早出理秋君
　　小林理香君　　　　荒尾理悦君
　　今岡理俗君　　　　本村理進君
　　池田理德君　　　　宮工理常君
　　勝元理吉君

右終リテ家元三家ノ萬歳ヲ三唱シ會集互ニ歡談シツヽ散會ス

上

午時　大正五年五月一日午後七時

重役會議ト傳書之講義

連日七日松應會例會散會後重役會ヲ開傳書ノ頒布方法其ノ他ニ就テ熟議スル仮アリ而シテ其ノ決定スル仮ヨリ以テ兩家岡ル等一切松應齋家ヨリ提出シテ贊成ヲ得タヲ以テ帝トシ内外共メニ甚ダ多事ナリ是故ニ松應齋家一所ノ實氣愈々活氣ヲ呈シ来リテ面目一新傳書ハ豫定ヲ異ヒスシテ成リ折紙マメ特製セラレテ面目全ク改マル等建議者及ビ池上理谷氏ノ労真ニ多トスルモノアリ其ノ一傳成ル毎ニ理鶴島田氏ハ自邸ニ家元ニ家及ビ同重役ヲ請シテ者者ト共ニ新旧相照シテ其ノ過誤ナキニ勉メ又師範代會頭ノ三傳ニ対シテハ家元ニ家同重役ヲ請ジテ者者之ヲ講ジ以テ其ノ文字図繪ノ奥ニ藏スル秘事溢奥ヲ説ク等又松応齋家重役会ノ延長トシテ秘密会議斯ノ

傳書新成改作祝賀會

家元系譜編纂夫ガ成ラズト雖傳書新成改作落サリ成ルヤニ家元ニ就テ熟議ヲ重ネ宮前ノ偉業大ニ祝セザル可カラズト乃チ書啓愈御清祥奉慶賀候陳者来ル十二日午前八時ヨリ江家西國美術倶樂部ニ於テ古流師範披露ニ為傳書新成改作祝賀会挙行仕リ度同所繁忙中恐縮至極ニ奉存候得共何卒御来臨之栄ヲ賜リ度様致度右御案内旁得貴意申候敬具大正五年十月吉日古流生花家元松盛斎山本理吟同松應斎千羽理君同松藤斎池田理英古流花友会総裁関直彦同会長玉川理調印刷物八方ニ致カレタ斯クテ豫定ノ如ク十月十二日ヲ以テ盛大ナル祝賀会行ハレ式場能舞臺ニ於テ関総裁ノ祝賀演説アリ水村理筱氏傳書新成改作理由ニ就イテ演説ス島田理鶴氏明人飯岡理通女史ヲシテ言ハシムル彼ヨリ支レヨリ家元ニ家ハ功績別ニ支ヒ賞ヲ行ヒ高ク廣同ニハ功績ニヨリテ定メラレタル席次浪出ヲ壁上高ク掲出シタリ其ノ次表サレタル席次左記ノ如シ

家元　松盛斎山本理吟
仝　松應斎千羽理君
仝　松藤斎池田理英
仝　不二流　三家元総司　花友会々長　松濤斎戸川理正

松柏斎　玉川現調
松緑斎　松井理玉
全
全
三家元名誉顧問
全　松川斎　島田理鶴
全　松如斎　水村理筱
全　松穆斎　吉岡現秀
全　松幽斎　池上理谷
全　松月斎　早出理秋
全　松静斎　相馬現國
全　松壮斎　佐藤理宝
全　松麗斎　梶川理仙
全　松寿斎　関　現華

全
全
全
全
三家元名誉會頭
全
全
全
全
全
松樹斎　天野理志
松寿斎　扶間現章
松芳斎　影山現静
松月斎　荒尾現晩
松凡斎　松村現静
松春斎　幸住理峯
松斗斎　鈴木理守
松暁斎　渡辺理章
松元斎　加藤理竹
松良斎　今関理各
松寿斎　小川理香

仝　松貞斎　荒井理智
仝　松廣斎　鳥居理泉
仝　松露斎　松本理序
仝　松操斎　水津理貞

三家元補佐待遇

以上

松杉斎　岩村理桃

尚ホ三家所属師範披露者氏名ヲ各別ニ掲示サレタルガ千明家披露人名ハ松古斎石川理周外百十名、山本家披露人名ハ松全斎武田理愛外六十八名、池田家披露人名ハ松登斎富理精外九十三名ナリキ

家元系譜編纂ニ就テ

系譜編纂ニ就テハ重役会屢々行ハレ水村理筱氏ハ専念之ガ材料聚集ニ力メ以テ両家ト打合ス攸屢ミナリシモ三家ノ意見光角ノミ融合ス結局三家元同重役外神田福田屋楼上ニ會シテ一致ヲ図リ重要事項次ノ四項ニ決定ス

一家元三家総司、名譽顧問、名譽會頭ノ席次ハ傳書新成改作祝賀會ニ於テ發表掲示セル順序席次ニ次ヲ編纂スベキモノ

一系譜ハ三家一巻トナスベキモノ

一系譜ハ之ヲ巻物トナサバルモノ

一編纂後ニ於ケル登録者ノ編入ハ系譜發行時ヨリ五

年毎ニ之ヲ出スベキ事

以上四項目ヲ茲ニ議決シ以外ノ事ハ一切編纂者ノ自由ニ一任ス

大正六年六月二十五日

家元　松盛斎山本
仝　松藤斎池田
立會　松源斎粉井
仝　玉川理調

以上氏名ハ自署シ之ニ松心斎家元ノ記名アラザルハ凡テ家元ヨリ委任サレタルヲ以テノ故ナリ

家元系譜發行後ノ紛擾

大正六年七月一日ヲ以テ家元系譜ノ印刷成リ同十五日ヲ以テ發行セラレ発行主任ニヨリテ夫々配布セラレタルガ図ラザリキ松盛斎山本理吟氏ニヨリテ苦情ハ持出サレタリ而シテ其ノ苦情ニ曰ク

系譜開巻初頭裏面ノ系線ハ大ニ事実ヲ誤レリ松盛斎家ニ弟夾ノ線ニ置カルベキニ松心斎家ヲ中央ノ線ニ置キテ松盛斎松藤斎ノ二家ヲ両手ヲ伸ベテ高ク吊上ゲタルノ観アラシメタルハ甚ダ不都合ナリ且ツ三家ノ配本各ニ数方ヲ異ニシ各家ノ配本各ニ其ノ家元及ビ其ノ所属ヲ先キニ数辺ニ奥附ノ家元ノ氏名亦之ニ倣ヒタル如キ不都合千万ノ極ミナラズヤ云々

右苦情ヲ持込マレタルニ応ジ友会総裁関直彦氏ノ図書館其ノ他ニ就イテノ家元系統ノ調査スル彼アリシモ系譜記載ノ系線ヲ覆スノ材料ナカリシトテ編纂者水村理彦氏ニ対シ曰ク

之マデニナリタモノ故マヽ穏ナニ何トカナリマセニ子。
ト斯ニ於テ水村理筱氏ハ次ノ如ク述ベヌ。
凡ソ史ヲ編ムニ方リテハ須ラク冷然タラザル可カラズ自分ヲモテ董
狐ノ筆ヲ同ジクシムレバ松盛斎家ノ祖先周水理遊先生ハ所謂
叛賊ノ魁ニテ師家ニ仇ナセル謀叛人ナリト評スベシ何トナレバ松盛
斎理遊先生ハ松応斎安藤源宇門下中傑出セル人物ナリシニハ
理遊先生ノ蔵版印行ニ係ル彼ノ所本ル古流生花宗匠録(文
化八辛未年)松秀斎新鐫ニナリ文政二己卯年八月マデ年々
増補ニ後中絶シ又改元癸未年三月新改同八乙酉年十二月
再補同十二己丑年五月増補改正天保七丙申年十月再々補
天保十五甲辰年正月再改正末部松盛斎法眼理遊蔵トナリ
テ法眼理遊ノ朱印アル横二寸四分堅五寸二分五厘表紙共二十四頁ノ
冊本ニテ中ハ三段ニ組マレタリ)其ノ他ニ敢テ略ボ推知セラル従ツテ自己ノ
天才的技倆ト智識熱力ヲ頼ミテ最モ厚ク師家ノ二世タルベキモノ
ハ師ナキ者ヲ潔イテ他ニ在ルベカラズト内心深ク信ズル彼アリシ
モノヽ如シ然シテ師匠松應斎ハ何見ル彼アリテヤ松盛斎ノ
兄弟ヨリタル松運斎藤助ニ楽ヲシテ遂ニ二世ヲ襲ハシメタリ
斯ニ於テカ理遊先生ハ憤然色ヲナシ其ノ弟子タルノ身分モ
省ミズ大膽ニモ奮然起ツテ自ラ松盛斎家元ト名乗ヲ上ゲ
以テ師家ニ謀叛シタルノ歴史タリ是レ理遊先生ヲ以テ謀
叛人ナリト評スル所以ニシテ若モ理遊先生ニシテ霊アラバ然リト
頷カルベシ然シ氏系譜編纂ニ方リテハ全ク堂狐ノ筆ヲ弄メテ其
ノ許容シ得ル限リニ於テ優劣ナリ苦情ナキヤウニ編纂シタ
ルナリ然レバ今史ヲ如何トモ所致スベキ方法ノ見出シ難キモ両

家ガ高ノ揩頭ニ吊下ゲラレタル観アリトノ点ニ対シテハ或ハ両家トシテハ左モアルベケレガ此ノ系線ハ横ニ古流生花中興之祖松應斎安藤保字ト字ヲ大小ニシテ二段ニ置キ其ノ下ニ同ク横ニ点線ヲ画キ其ノ点線下ニ中央ニ松応斎向ツテ右方ニ松盛斎系左方ニ松藤斎系ノ各四字ヲ記シ而シテ各々其下ニ代ヲ逐フテノ記スサトハシテ如何ニ哉ト

関氏亦同感ナリトアリ重役会亦之ヲ可トシテ系線ハ家元ニ訂正セラレ紛擾ハ関氏ノ斡旋口添ニヨリテ漸ク落着ヲ見ルニ至リ由来問題ハ必ズヤ松盛斎家ヨリ起生ス関氏ハ文人花子ガ松盛斎山本家元ノ門下タルノ故ヲ以テ何事ニヨラズ問題ハ事々ニ遠慮ナク関既ヘ持込マル温良謙譲ヲ以テ政界ニ聞ヒタル国民党総務衆議院議員勲二等関大人斯クノ如クニシテ時ニ斡旋役ヲカメシメラルルハ蓋シ是レ君子仁人ノ哭セナル哉カ

松應齋家新年廣告

松應斎家ノ面目日ニ日ニ新ナリ大正七年正月始テ雑誌『花道』ニ左ノ廣告ヲ掲グ

恭賀新

大正七年一

古流生花家元

松應齋千羽理君

三家元総司 同

三家元名

松調斎 戸川理正
松柏斎 正川理調
松幽斎 池上理谷
松月斎 早出理毅
松蘘斎 梶川理仙
松洲斎 佐藤理宝

年　月　元旦

出席　同

二八

松如齋　水村理薇
松川齋　島田理鶴
（いろは順）

外社中一同

決議

一傳書及系譜ノ奥附ハ當然付セラルベキ筈ナリシモ両家ノ懇請黙シ難ク發行主任ニ於テ便宜取計ヒ家元ニ家ノミノ奥附ニヨリテ發行トアリタルモ之元ト違法ノ奥附ナルヲ以テ両後ハ本間様奥附ヲ付スベキ旨山水池田両家ヘ通告スル事。

一著作発行ノ本旨ニ基キ本後系譜ヲ齋号許ニ添付授與スル事ノ断行ニ齋号許証及ビ系譜ニ其旨ヲ記入スベキ旨両家ヘ通告スル事。

一傳書齋号授與價額ノ定書（大正五丙辰年三月家元ニ家名ニ於テ發表師範者ニ交付シタルモノ）中

一初傳五圓ト定アルヲ七圓ニ
一中傳七圓ト定アルヲ十圓ニ
一齋号七円ト定アルヲ十円ニ
一奥傳十円ト定アルヲ十五圓ニ
一皆傳壱円ト定アルヲ廿圓ニ

改ムベキ両家ヘ通告シ賛同ヲ得テ發表スル事。

一總司ノ主師範ガ家元ヨリ受クベキ傳書齋号ノ價額ヲ次ノ如ク印刷発表スベキ旨両家ヘ通告シ賛同アルトキハ家元ニ家連名ノ印刷發表ナスベキ事。

家元納ノ額

	家元納ノ額	家元補佐 家元会頭	家元師範代
心得	壱円五十銭	壱円	壱円
初傳	壱円八十銭	壱円十銭	壱円三十銭
中傳	壱円八十銭	弐円三十銭	弐円四十銭
奥傳	弐円	弐円五十銭	弐円五十銭
皆傳	壱円九十銭	弐円六十銭	弐円七十銭
師範	弐円	四円三十銭	四円四十銭
陣代	壱円二十銭	四円四十銭	四円五十銭
会頭	壱円三十銭	弐円五十銭	弐円七十銭
	壱円四十銭	弐円	弐円八十銭
	但し表中家元納額ハ発表スルヲ要セザルモノトス	七円	弐円九十銭
		五円	弐円三十銭
			弐円四十銭
			弐円五十銭

以上

一流祖安藤涼宇先生墓地修繕ヲナシ法要ヲ営ムヲ及ビ涼宇先生以後代々之碑ヲ建立スルヲハ将来ニ之ヲ留保スルヲ（島田。木村提案）

一家元ニシテ招待ヲ受ケタル時ハ万障一那必ズ出席スルヲ万一差支アル時ハ重役之ガ代理ヲ務ムヲ（島田。木村提案）

一地方開拓ノタメ適當ナル名称ヲ選定シ地方取締乃至其他ノ特典ヲ希望者ニ附與シ當流ノ發展ヲ図ルヲ及ビ其ノ名稱ハ近キニ案出スルヲ（島田。木村提案）

一花道講習ノ需メアル時ハ必ズ之ニ応ズルヲ（島田。木村提案）

以上八項目決議ス

大正七年十一月二十三日

重役會議列席氏名

早出理秋氏欠席ニ付キ封書報告ス

通告

十一月二十三日決議ニ基キ通告状ヲ發スル左ノ如シ

家元公　戸川理正　玉川理調　梶川理仙　佐藤理寶幸　池上理谷　島田理鶴　水村理筱

拝啓愈ニ御多祥奉賀度陳者去月二十三日松應斎家重役会議ニ於テ左記ノ条決定致度同此段御通知申上度

一伝書及家元系譜ノ奥付ハ著作発行ノ旨ニ改ハシムル為メ而後内務省効本ト同一タラシムル事

一家元系譜ハ編纂當初ノ主旨ニ倣ヒ而後斎号許証ト共ニ授與スルヿヲ実行シ斎号許証ノ文言ハ當流免状ニ倣ヒ斎号及家元系譜授與ノ旨明示スル事也ニ改訂スル又系譜ノ終末ニ授與ノ旨明示スル事

一大正五丙辰年三月ニ家元三家ヨリ発表シタル伝書及斎号授與價額ノ捉書中次ノ如ク改定スル但此項ハ水家元池田家元西家ノ賛同ヲ俟テ発表スル事

一心得、師範、師範代、会頭、價額ハ其侭据置ク事

一初伝　五四トアルヲ　金七　四トス　三四
一中伝　七四トアルヲ　金拾　四トス
一斎号　七四トアルヲ　金拾　四トス
一奥伝　拾四トアルヲ　金拾九四トス
一皆伝　弐拾四トアルヲ　金弐拾五四トス

一家元ヨリ紙司乃至師範有ノ受クベキ伝書斎号ノ價額次如ク印紙ニ対シテ師範以上ニ配布通達スル事

但シ此頃ハ山本家元池田家元両家ノ賛同アル時ハ家元ニ家ノ名連署ヲ発表スルヲ

紙司乃至師範有ガ其ノ次第階位ニ依リテ家元ヨリ受クベキ伝書斎号ノ價額

（伝書斎号ヲ受ケラルヽ二人名其ノ師家ヲ経テ家元台帳ニ登録セラルヽモノトス
ヤ師範以上ハ必ズ此ノ登録ノ伝授氏名落ダアルベシ
家元ヨリ高橋司家ヲ通ジ
仮名書斎号ニ在リ　仮名書斎号ニ関シ家元ヨリ伝授
家元師範代　家元納額

一心得（浙紙心得抄）九才　壱四才　壱四三才　五十四才
一初伝（浙紙巻物口訣抄）弐四才　弐四三才　壱四八才
一中伝（仝上）弐四才　弐四五才　弐四七才　壱四八才
一斎号（浙紙家元秘譜）参四五才　四四三才　四四七才　参四　四
一奥伝（浙紙巻物口訣抄）弐四三才　弐四七才　弐四八才　弐四九才　壱四九才
一皆伝（仝上）弐四三才　参四三才　参四四才　参四九才　壱四九才
一師範（浙紙相伝抄）弐四　参四　参四四才　弐四九才　四
一師代（仝上）弐四五才　五四　壱四三才
一会頭（仝上）参四　七四　壱四四才

但シ表中下段家元納額ハ発表スルヲ要セザルモノトス

以上

尚ホ各項中特ニ但書アル者ニ於キテハ未ダ九日迄ニ印賛同ノ有

御田報相願奥様致度得貴意候　敬具　三六

大正七年十二月三日

重役八人連名

松盛斎山本理吟
松藤斎池田理英　各通

著作者會催通告

十一月二十三日重役会決議事項中実行報告ヲ要スベキ為メニ発
シタル文書次ノ如シ

拝啓愈々御多祥奉慶賀候陳者来ル三十三日午後四時ヨリ
神田福田屋ニ於テ左記事項ニ就キ家元三家重役集會　平二

伝書及系譜奥附所載ノ著作者會相開キ候間歳暮ノ繁忙
ノ折柄甚ダ恐縮至極ニ存候ヘ共萬障御繰合ノ上是非共御
臨席相願ヒ奥様致度此段得貴意候　敬具

一　傳書料ノ改定及ビ紹司乃至師範者ガ家元ヨリ受クベキ傳書料号
ノ價額ニ就テ

一　傳書系譜ノ著作発行ノ主旨目的

一　著作者ヲ多数ニ為シタル理由

一　著作者ノ本分ト利害得失

一　其ノ他数件（以上）

尚御承知ノ如ク奥附所載ノ方々ハ著作者トシテ各人一様
ニ平等ナルモノニ有之候ヘ共師弟ノ間柄ナリトシテ御委任又ハ御

遠慮ニ依ル師匠委セノ御欠席之ナキ様此ノ我念ノ為ノ特書候

大正七年十二月二十一日

家元三家宣役　家元三家幹部

著作者　各通

重役並著作者會

十二月二十日通告ニ従ヒ神田福田屋楼上ニ集会、島田、水村ノ両人交々通告状記載ノ順ヲ追フテ詳説スル彼アリ、松盛前山水家元松藤前池田家元ト再説頻リナリシガ其ノ結果通告状記載ノ一項ノ價額ニ就イテハ異論ナキモ師範以上ノ價額發表ヲ喜バズ且ツ両家共伝書ノ奥印料徴收ヲ主張シテ止マズ殊ニ玉川氏亦何物カヲ家元ニ求ムルモノヽ如ク詰気頗ル平調ヲ欠キタルモ氏ノ為メ特ニ斯クスベシトノ言辞モ出デザリシ為メ氏怫然色ヲナシ酒盃ヲ棄テ退席シ家元亦傳書價額ノ發表受ニ考ヘルヿトシテノ後日ニ之ヲ譲ルベシトナシ斯クシテ其決定ヲ見ルニ至ラズシテ散会ス

維時

大正七年十二月二十二日午後九時半

年賀状發送

家元堂帳ニ登録サレタル準師範以上ニ対シ賀状発送ノ先例ヲ

開キ年々之ヲ継續実行スルヲトナン（水村理篤提案）依次賀状ヲ印刷ニ付シテ発送ス

謹賀新年

大正八年元旦

（古流）（家元）松應會幹部

（水郷巡春水町三百二十四番地 電車……水郷巡役前下車）

追而来る十一百年後正三時より家元に於て新年発会を執行実同萬障出繰合の上同時刻迄に御参会有之は格別度此段御案内旁得貴意候に御参会の節は左記會費及び福引品の御用意有之度様併而願上奉

會費　金壱円五拾銭……

福引品　何品にても金壱円以上拾銭以内の御考案品

尚日用意の都合も有之に付御参會の有無来る十日迄に御報願上奉

家元會頭以上各通

謹賀新年

大正八年元旦

（古流）（家元）松應會幹部

四一

追而来る十一日午前九時より後三時まで家元に於て新年発会式を執行仕候間如上時刻内に御来会有之様御投票
（本郷区春木町三丁目二十四番地　電車にて本郷区役所前下車）
御案内旁得貴意候
（但し御来会の節は御名刺に御持参の様願上候）

家元師範代以下各通

新年広告

大正七年正月元旦新年広告ノ先例ニ倣ヒ新年高帆雑誌『花道』ニ賀正広告ヲ掲ク其ノ躰載前年ニ同ジ

大正七年十一月二十三日本会決議十二月三日両家ニ対シテ通告ノ仮両家承諾ス依テ左ノ定書ヲ石版印刷ニ付シ各師範者ニ交付ス

定書改正変表

定

一雅名及心得之巻	金参円	
一初傳	金七円	
一中傳	金拾円	
一齋号	金拾五円	
一奥傳	金弐拾五円	
一皆傳		

一家元師範（抱瓶生試験を行ふ）　金弐拾五円
一家元師範代（口訣同春を行ふ）　金参拾五円
一家元会頭　金五拾円

以上

右者家元三家協議之上相定事也

大正八年未年正月

流家元　松盛齋山本理吟
同　松應齋千羽理君
同主流家元　松藤齋池田理英

決議

家元三家重役

一松応會ハ家元擁護ヲ以テ存立ノ主義トス

一家元ノ正系ニ其ノ師目ヲ承継スルノ資格（才能藝術）ヲ欠キ又ハ承継者ナキ時ハ其ノ資格ヲ有スル者ニ至ル迄又承継者アル迄ハ松応會ニ於テ輔翼スルモノトス

一家元ニシテ家筋以外ノ者ヲシテ師目ヲ承継セシメント欲スル時ハ松応會ノ承認ヲ経ベキモノトス

一松応會ハ事ハ細大トナク元老ニ諮ルベキモノトス

一傳書（巻物折紙類ヲ含ム）ノ発行及ビ発行ニ関スル一切関係帳簿書類並ニ関係物件ニ対シテハ松応會之カ管理ニ當リ家元、元老、理事、隋時之ヲ監査ス但シ發行及ビ之ニ関スル一切ハ発行主任之ヲ司掌シ著作主任之ニ参加スル

一松應會ハ役員ヲ分チテ元老、理事、幹事トス

一松応会役員ハ理事会幹事会ノ二トシテ幹事會ハ理事之ヲ統ベ家元、元老ハ意見ヲ求ベ又ハ求ムルヿヲ為スモノトス

一松応会ニ會長副会長ヲ置ク

一會長副会長ハ理事之ニ当リ長老ヨリ順次年番ニ交代ス

一家元及ビ元老理事ノ集會ヲ単ニ重役会ト称ス

以上定ムル所ノ決議ハ之ヲ以テ松應會永久不變ノ憲法トス

以上決議ス

一松応會日次例会ノ改善發達ニ勉ルヿ

一家元ノ轉宅祝トシテ松応斎ノ一明各自応分ノ祝意ヲ表スヿト定メ其ノ取纏メテ贈呈スルヿ

一家元ヨリハ単ニ感謝状ヲ発送スルニトヽメ一切松応会ニ於テ取扱フベキヿ

一以上ノ三項目ハ次会ニ於テ報告発表スルヿ

一加藤理竹氏ヲ理事ニ推挙スルヿ

一石塚理耀、鈴木理言、宇佐川理皖三氏ヲ幹事ニ推薦スルヿ

以上追加決議ス

大正八年二月七日

元老　家元谷
同　戸川理正
同　玉川理調
理事　梶川理仙
同　早出理秋
同　佐藤理寶幸
同　池上理谷
同　島田理鶴五
同　水村理筱五

通示

大正八年二月七日追加決議第一項に基き次の印刷物を作り

松應齋家一門に配布し更に下記領収証を作り

松應會月次例會

……生花の研究と伝書の講演……

一今度松応会では花を生けて研究するのみに更に一歩を進めて方法を講ずる外毎会伝書の講演をも始めることになりました

一講演は例へば『燕子花一花一葉の事』『船と艘の生方』『殿隠の様』『霧隠の紅葉』『床飾』『花衣桁』などとある所は一々実物で形態を示して傳書と對照して講義をするのです

一例会は毎月七日正午より家元千羽家に於て開催するのです

一松応会の会員は毎回出席して生花の研究は勿論伝書の講演を聽くことも又生花や伝書に就ての質問も出来ます

一松応会は本年正月より松応齋家の系譜に登録されてある方

々と未だ登録されて居ないことは當然会員となつて頂き又
未だ師範許までに仰進級のない方々にも奮つて入会あ
るべく仰勧めすることゝ存じて居ます

一而して会費は月五銭の割合で六ヶ月分又は一ヶ年分を時に
仰納めして頂くのです

但し例会に仰出席の際には當日の会費として金拾銭を特に申
受けます

一幹部に於きましては松応会の生命として無意義にならぬ
様にと絶えず努力して居るのですから会員の方々も幹部の
意のある所を諒とせられ松応会の存立をして無意義たら
しめない様仰奮勵願ひます而して松応会員は常に斯道の
先駆者たるべく皆様に切望して止みません

以上

大正八年二月吉日

古流家元 松應會
會長 松月齋早出理秋
副會長 松壮齋佐藤理寶
家元 松應齋千羽理君
神田区末広町二十一番地
電車大学停留場下車

一金 拾銭 領収証

右正に領収致也

大正 年 月 日 古流家元 松應會

年分會費

理事殿

通知

大正八年二月七日追加決議第四項ニ基キ左ノ通知ヲ發ス

相談事項ノ詳細ハ其筋ニ係ル未ダ日尚ホ高元
ニ於テ重要事項ハ仔細ニ報告ス
ハ其筋ニ於テ高元会頭以上ノ集会ニ催
所ハ帝国ホテル

大正八年三月一日

神田区末広町二丁目一番地
電車末広町停留場下車

五二

會頭級以上各通

古城
吳天

松應會幹部

神田区末広町二十一番地
電車末広町停留場下車

三月例會

大正八年二月七日追加決議第四項ニ基キ報告發表ヲナス
ニ終テ講演ニ移ル

一課題　紅白ノ生方
席上桃ノ紅白ヲ表出ス　水村理事ニ書ト対照ス
ニテ一場講演ヲナス

傳書價額發表

五三

大正七年十月三日福田屋楼上ノ三家重役並ニ著作者集會ニ於テ遂ニ決定ヲ見ルニ至リザリシ傳書價額發表問題モ其ノ後数度ノ交渉ノ結果松応斎家トシテハ斯ジテ既定ノ意思ヲ離レシテ家元一家ノ所得ノミヲ圖ルノ迂愚ヲ學ブベキ筈ナキモ斯クテハ公表ノ期愈々後シテ程々ナル弊害ヲ釀スノ憂アリ是故ニ両家ノ為メ特ニ師範師範代、會頭ノ價額発表ヲ見合セ且ツ傳書奥印料徴収ノ注意書ヲ加フルコトニシテ漸ク茲ニ次ノ如ク發表ヲ見ルニ至レリ但シ松応斎家ニ於テハ當初ノ意見タル奥印料ヲ徴収セズトノ方針ハ之ヲ改ムルモノニ非ズ依テ其ノ注意書中『特』ノ二字ヲ以テ松應斎家ノ進退自由ニシタリ

總目　乃至

師範者ガ其ノ資格順位ニ依リテ家元ヨリ受クベキ傳書齋號ノ價額

▼傳書齋号ヲ受ケテ以ニ、二ハ各其ノ師範家ノ控ヲルベシ▲
▼師範以上ハ氏名ヲ家元台帳ニ登録セラルヽモノトス▲
▼師範以上ニハ必ズ被授者ノ住所氏名書添付アルベシ▲

傳書齋号表組

一心得（斯道心得抄）	金壱円弐十銭	家元補佐	家元会頭
一初伝（斯道巻物口訣抄）	金弐円弐十銭	家元師範代	家元師範
一中伝（同上）	金弐円巻十銭	金壱円四十銭	金壱円五十銭
一斎号（斯道巻物奥義口訣）	金弐円四十銭	金弐円四十銭	金弐円五十銭
一奥伝（斯道巻物口訣抄）	金弐円五十銭	金弐円五十銭	金弐円六十銭
一皆得（同上）	金弐円七十銭	金弐円六十銭	金弐円七十銭
一師範（斯道相伝抄）	金弐円八十銭	金弐円七十銭	金弐円八十銭
一師範代（同上）	金巻円	金弐円九十銭	金巻円十銭
一会頭（同上）	家元ノ重役会議ノ定ムル所ニ依ル。	金巻円弐十銭	金巻円巻十銭
		金巻円四十銭	金巻円六十銭

（注意ニ家元ニ於テ特ニ奥印ヲオネガヒハ奥印相成シテ（心得、初中、奥皆ハ各金五十銭、号ハ金壱円）ヲ加フ　五六

而シテ右記價額表前ニ次ノ如ク前文ヲ置ク

拝啓愈御清福奉慶賀候陳者此度家元重役会議ノ結果左記決定相成候間此段御報告及ビ候　敬具

大正八年四月吉日

古流生花　家元　三家

同　重役

四月例会

一課題　燕子花一花一葉

課題ニ従テ実物生ケラルル水村理事講演ヲナシ島田理事燕子花之葉組ニ就テ自家研究ノ要領ヲ述ベテ古流ハ

於ケル葉組ハ誤謬ナリト断ジテ其ノ葉組ヲ示ス

誓約書ノ更改

大正五年五月一日神田福田屋ニ於テ誓約調印セシモノ（左ニ）

大正七年十月三日ノ通告トナリ誓約調印者ノ名著作者ナシテ奥附ニ現ハルヽヤ松盛斎家ノ人選其ノ宜シキヲ得ザリシ為ノ同家一門ト紛紜生ジタリトテ言葉ヲ尽シテ人員ノ増加ヲ懇願セラル為ノニ松應斎家ハ松盛斎松藤斎両家ト交渉ヲ重ヌルヿ幾回ナルヿ知ラズ重役会議又重役会議ト其ノ数ヲ重ネテ遂ニ三家共ニ増加スルヿトナリ尓後新シテ増加セザルヿヲ誓ヒ大正八年四月十五日福田屋楼上ニ於テ誓約書ノ更改行ハル、誓約書ノ本文ハ目録ハ旧誓

五七

約書所載ノモノト異ナラズ年月日ヲ大正八年四月十五日ト改メ其ノ直下ニ「大正五年五月壱日誓約調印済ノ仮人員増加ノ為メ変改ス」ノ記拾五字ヲ二行ニ細書シテ其ノ上下ニ括弧ヲ施シタリ而シテ其ノ誓約者ハ次ノ如ク自署調印セリ

誓約者

井上てふ　　誓約者　松本兼三郎
山本新太郎　全　相馬國
池田勇造　全　松井雄
千羽　成　全　渡辺章
崖峰三郎　全　天野ツヤ
玉川栄吉　全　鳥居兼
谷　八重子　全　荒井ふ代

全　小川寿ゝ
全　高橋國夫郎
全　三上源三郎
全　早野ゑ代
全　吉岡角太郎
全　早出喜郎
全　勝元欣子
全　椎川小夜
全　村尾花子
全　切輪不谷
全　樋口泰代
全　青山静子
全　鈴木留吉
全　佐藤栄次郎
全　鈴木農次郎
全　石川たい
全　山本　芳
全　塚原つな
全　新藤忠い
全　小森ゑよ
全　石塚寅蔵
全　内海銀次郎
全　森　芳子
全　遠藤竹子

誓約者　加藤　竹　　誓約者　六〇
〃　小峰亮義　〃　黒田登宇
〃　河崎多杜子　〃　田口嘉根
〃　星野鶴子　〃　桝崎きん
〃　今関派子　〃　関　華
〃　挟間真幸　〃　松村高子
〃　荒尾石子　〃　影山一清
〃　高橋登世　〃　藤田初太郎
〃　小川ゑん　〃　内海銀次郎
〃　佐木きよ　〃　大沢富子
〃　池田とく　〃　塩田孝子
〃　岩上　漆　〃　水村孫七
〃　小林　光　〃　櫻井多代子
〃　阿部まな　〃　島田半次郎
〃　〃　〃　池上福三郎
〃　〃　〃　戸川巳得

以上

即チ右記ノ如クナルガ本誓約書ハ石州半紙三枚ニシテ参銭印紙貼用セラレ爾目ニハ契印ヲ施サレタリ

五月例會

一課題馬耳蘭

席上三枚ヨリ九枚迄ノ実物四瓶アリ　水村理事例ニ依リテ講演ヲナシ島田理事其生方ニ就テ説明終リテ東宮殿下御成式ヲ奉祝スベク祝杯ヲ挙ゲ島　六一

理事発声ニテ萬歳ヲ三唱ス次回ノ傳書講演課題ハ
分ケ株分ケナル旨公表ス

家元轉宅祝ニ就テ

大正八年二月七日追加決議同年三月七日発表ニヨリ松應齋
家一門ヨリ祝意ヲ表セラレタル金圓ノ総額ハ壱百五拾壱円
ニシテ其ノ内家元ノ直接受贈サレタル玉川理調氏門下
沙々貴理月社中西村後藤両氏ノ分ヲ除キ松応会ノ手ニ納メ
タル総額ハ実ニ金壱百四拾九円ナリ此ノ内金壱百円ヲ轉宅
祝トシテ贈呈シ元老理事一ノ家元田禮進物費金拾五円
及謝状印刷並ニ発送費拾壱円ヲ差引残額ハ壱百四拾四円ヲ五月十七日日本橋
濱町料亭喜文ニ於ケル家元ニ家祝賀会（此ノ三家合同祝賀会ハ伝書系譜一切ノ

完了ニ家元ノ基礎確固トナリ三家共立ノ実全ク挙リタル祝賀興奮部五十
年祝賀会ニテ島田流、水村ノ三理事及吉岡理秀氏ノ功労有トシテ特ク招待セラレタリ）
家元金賞金拾五円ノ総額六拾弐円四拾四銭ヲ差引計算シ
拾参円四拾四銭ノ不足額ハ松應會積立金中ヨリ之ヲ補助支
出シタリ其ノ祝意ヲ表サレタル一門ノ氏名金額ハ次ノ如シ

金参拾円也　玉川理調及社中共弐拾九人

中村理元　山岸理峰　滝理渓
大沢富　塚原鋼　鯨井改
和田勇　露村邦　外山照
田村庫　岡野操　宮脇信
岡本生　贄田清　片岡末
奥村宗　小川香　小川鶴
平沼寿　佐野水　石川周

金弐拾円ヤ

小泉清（西川社中）　奥村鶴（桑木社中）　原田光　鈴木言（仝）　中村照　太田心　立原降

桃川理仙及社中共八人

池田理徳　広川勝　黒田律　池田理凡　村尾花　岡本理福　渡辺神

金弐拾円ヤ

島田理鶴及社中共十八人

阿部理泉　水間仁（長谷川社中）　加藤富　大川楊　桜井理條　飯岡道　山宮留　川辺秀　今井理春及社中人　長谷川静（仝）　天野信　金子江

金弐円ヤ

浦川瀬　三宅仟　内田盤　篠藤香

水村理筱及社中共弐人

玉村理茜

金拾円ヤ

池上理谷及社中共拾人

岩上理涼　小林勢　吾妻香　神林理更　新藤栄　熊井貞　八尾理晁（西川社中）　田辺司（地位堂ノ）　久保水光

金拾円ヤ

早出理秋及社中共八人

勝水理景　村井常　武田勇　坂輪理光　関戸豊　長谷川理晩　林琴

金弐拾円ヤ　佐藤理寶及社中共参十参人

茅山春子	小林美恵子	島田かね子
星野	島田柳子	島田花子
篠崎うめよ	三宅よしよ	山崎新太郎
吉川ゑ子	今福ふみ子	西山
緑川理房	植村弘子	中村理千蔵
立花雪子	立花清子	佐藤理千代
中島とり子	清水静子	清水とー子
田中理仲	佐藤理鷹	田川
藤尾信子	池田	二見みつ子
吉城やよ子	井上理蝶	高橋理登女
長塩理定	竹島理浪	岡本理樹

金拾五円ヤ　加藤理祈及社中共拾五人

西村理常	富田理和	武田理照
中村重	山本良	山本泉
草野隆（少森社中）	山本幸	小森公（仝）
竹村康（仝）	竹田春（仝）	福田汀
石田淑	櫻井久	

金弐円ヤ　岩村理桃

金拾円ヤ　石塚理耀及社中共八人

山岡理隆	山岡理貞	倉永理久
田川孝	石塚秀	福岡真
宮佐川統		

金五円ヤ　小林理香及社中共五人

小林理梅　西山理栗　横山理鶴
土肥芳

金五四〇〇　八木理爽及社中共四人
多田もと子　高橋とみ子　近藤のぶ子

金弐円〇〇……（後藤理勝）（西村理幸）家元直接受贈

金額不明……汁々貴理月山根理富ノ二人家元直接納

以上一百四十五人也（外ニ家元社中ハ家元ヘ直接金品ヲ贈リタルモノ数名アリ）

送ル謝状ノ文意左ノ如シ（状ハ石版印刷紙ハ鳥子）

過般転宅ノ節ハ御祝ヲ頂戴御厚志之程難有奉深謝ス
略儀ヲ謹而茲感謝之意ヲ表ス　敬具

大正八年九月

殿

家元　松応斎　千羽理君
元老　松涛斎　戸川理正
同　松柏斎　玉川理調
同　松鹿斎　梶川理仙
童役一同

六月例會

一課題根分株分
席上茗荷七輪九株左手根分一瓶アリ　六九　木村理事極メ

テ詳細ニ講演ヲナシ散会

七月例會

一課題七夕之花

薄端ニ笹、白紅ノ梅子、梶ノ葉ノ代リニ八手ヲ用ヒテ右本手入レタリ水村理事七夕ノ由来ヨリ花及ビ梶ノ葉ヲ用ヒタル所以等ニ亘リテ詳細ニ講演シ師範、師範代、会頭ノ三傳ニ亘ル床曲尺割ノ秘事ヲモ伝セテ詳説シタリ

定書改正發表

春正月ヨリ発表セラレタル定書ハ更ニ次ノ如ク改正発表セラレタリ

定

一雅名又心得之巻　金五円
一初傳　金拾円
一中傳　金拾円
一斎号　金拾円
一奥傳　金弐拾円
一皆傳　金参拾円
一家元師範（拾箇生試験を行ふ）　金参拾円
一家元師範代（口訣問答を行ふ）　金四拾円
一家元会頭　金五拾円

以上

右者家元三家協議之上相定候也

大三八年未年七月　古流家元　松盛斎山本理吟

傳書値上告知

端書名紙大ノ用紙ヲ以テ次ノ印刷物ヲ作リ師範以上ニ配布告知ヲナス

拝啓暑ノ折柄愈々清福奉慶賀ハ陳者既ニ御承知ノ如ク物價ハ非常勢ヲ以テ日ニ昂騰シ紙類ハ勿論印刷製本費ニ至ル迄甚カラズ暴騰ハ為メ今春四月吉日附御報告申ハ心得乃至会頭ノ傳書價額ヲ仮令左ノ如ク相改メハ間此段御報告及ビ申也

同　松庇斎千羽理君
同ニ流家元　松藤斎池田理英
家元三家重役

七二

傳書前号　第一組ニ対シ悉ク既定價額ヨリ金弐拾五銭増

以上

大正八年八月吉日

古流生花　家元三家

殿

定書印刷

家元三家ハ時代ニ鑑ミ協議ノ結果次ノ印刷物ヲ作リ三家師範以上ニ分配セラル

一稽古

定

（週一回トシ材料ハ巻ノ自辨トス）

七三

一束修　金貳円

一自宅稽古　金弐円

一出稽古　金参円乃至金七円

一特別稽古　規定以外トス

一休暇　自一月一日至同月十五日
自七月十五日至八月十五日
休暇ニテ月以内ハ徴収シ以後ハ免除ス

一授業料

但シ授業料ハ悉テ前納ス

以上

大正八年八月

八月例會

古流生花　家元三家

一課題　三草生

席上女郎花、芒、桔梗ノ三草右本手ノ一瓶アリ　水村理事

三草生及床ノ曲尺割秘事ニ就テ詳説ス

九月例會

一課題掛物ト生花

生花ノ飾位置、変化、掛物一幅二幅掛ニ就テ水村理事講演シ島田理事ノ発議ニテ河骨ノ水揚ニ就テ無記名投票ヲ行ヒ灰ノ上澄液ノ最良ナリシ述ベ池上理事蓮ノ水上ニ就テ綿ヲ針ノ如キモノニテ軸穴ニ二三寸押込ミ生ケ方ヲ水上ノ上々ハ方法ト云フガ如シト自家研究ニ就テ詳説シタリ

島田理事逝去

島田理事九月十七日朝四時五十分逝去セラル依テ松応斎家所属元伝書奥附所載者ニ対シテ左ノ通知ヲ発シ一般会員ニ対シテハ十月例会ニ於テ発表スヲトナス法名『松川斎理鶴日翁居士』

追而本会理事島田理鶴氏今朝五時突如トシテ永眠致サレタル旨本日十九日午後一時出棺葬送之事ニハ共遠中行列廃止ノ事故同日午前八時より十時ノ間ニ於テ永別ノ焼香致度旨ノ案有志之方ハ岩時刻ニ同邸ヘ御来集有之様致度且又訃報不敏及ビ通知ハ如

大正八年九月十七日

松應會

殿

本会ヨリハ香奠金参拾圓（島田理事ノ如キ功績者ハ流葬ニ若クハ会葬トシテ然ルベシトノ論アリシモ両家ノ思ハク及ビ費用ノ点モアリトテ止ム）ヲ支出シ家元ノ香料金式拾円ニ併合シテ金五拾円トナシ家元松応斎ノ名義ヲ以テ贈ル。香奠折合セニ就テハ山本池田両家ノ意向態度甚ダ醜陋ヲ極ム今其ノ一ヲ記セバ両家ノ曰ク各々金拾五円即チ参拾円松応斎家金式拾円郡合金五拾円也ヲ単ニ家元三家ト記シテ贈ラントスルニ主張ノミニ止マラズシテ遂ニ実行シタリ依テ茲ニ其ノ一例トシテ特記ス

十月例會

一課題　菊之生方

島田理事逝去ニ就テ才二世襲名ノ手続其ノ他ニ時移リ遂ニ休講ノ止ムキニ至リタルガ次回ノ課題ノ間々勉之生方トシテ散会ス

十一月例会

一課題菊之生方

霜月ノ日脚短クシテ帰リヲ急ゲ人々ノ多ケレバ水村理事簡単ニ課題ニ就テ講演ヲ終リテ散会ヲ告ゲ直後会議ニ移ル

会議

故島田理事未亡人柿沢イヒ子松川斎師日戻謝ノ松應斎家ニ於テハ之ヲ承認スルヿ及ビ

松応斎家ハ常ニ両家ヲ指導シ模範ヲ垂示シテ斯道改善及達ノ先駆有タルベキトノ主義本願ヲ貫徹スルタメ其ノ一トシテ大正八年二月十九日ノ花友会例会ヨリ**松應斎家ノ**提案透徹シテ**亦永行ハル**ヽニ至リタル**傳書実物対照講演ハヲ極力継続スルヿ松応斎家ハ挙テ一門ノ歩調ヲ一ニスルヿ**（花友会例会ニ於テハ其実物対照（傳書講演ノ提案ハ松応斎家ニ於テモ戸川元老ノ如キ時期尚早ノ反対アリシモ島田水村ノ二理事ノ穏極的行動ニヨリテ遂ニ花友会ニ於テ師範有ノ伝書知識向上ノ為メ例会毎ニ滞リナク講演ノ行ハレタリシニ玉川元老之ヲ喜ビ必ズ二三回ノ講演ヲ重ネタル上遂ヤザルニ突如之ガ休講ヲ将来ニ向テ決行スベシト発言セラルヽ人ノ賛成者ナカリシ後講演ヲ同氏ヲシテ面目ヲ失シタルヿ有）

尚ホ松応会ニ欠席勝ナル玉川元老ハ以上二事項ニ対シ聊カ意見ヲ異ニセル、右ノ如ケレバ以上ノ二決議ヲ齎シテ意見ヲ聴取スベク早出池上水村ノ三理事玉川邸ヲ訪問スルヿ

以上三事項決定ス

大正八年十月七日

石塚鈴木二幹事居残リテ右会議ニ列ス会議終テヨリ芸グルヤ梶川元老一同ニ寿司ヲ饗セシ松應會ハ酒飯ヲ饗ス散会夜八時

通告

元老　元
会長　家
副会長　梶川理仙
理事　早出理秋
同　佐藤理寶
池上理谷
水村理筱

前日行ハレタル重役会議ノ結果玉川元老ニ左ノ文書ヲ送ル

拝啓昨日例会終了後重役会議ヲ開催ハ事項所報告等所謂ル陸奥来ル十日午後六時池上水村両氏ト共ニ来館ニ御面倒若シ同日同刻ニ御都合ニ寄リ有ラバ御出ヲ一報致シ度

敬具

十一月八日

松應會長　早出理秋

玉川理調殿

玉川邸訪問

早出池上水村三理事七日決議ヲ齎シテ元老玉川邸ヲ訪フ報告懇
談数刻ニ及ブ玉川氏ハ戸川元老ヲ詐欺師ト攻撃シ島田池上水村
ノ三理事ヲ侮辱スル事激甚早出理事ニ対シテハ『お前さん女の腐(た
ぶ)に似て斗り愚図ゝゝ云はずに斯ゝして揃つて居る前で皆言つて迷る
が好い』ト然レドモ早出氏ハ尼言モ云フ仮ナシ水村理事悠々逼ラズ詩ヲトシ
テ玉川元老ノ悉ク誤解ニ出デタル誤解ニ終リシ結果ナリト説破シ池上理事
亦水村理事ニ和シテ言フ仮リシモ玉川元老徹頭徹尾罵詈雑言ヲ吐キテ
其ノ非ヲ悟ラズ早出理事絶エズ沈黙ヲ続ケテ遂ニ言葉ヲ発ス池上水村ノ二理事更
ニ言ヲ和ゲテ玉川氏ノ色ヲ窺ヒバ元老忽チミヲ悉クヲ解ヲ得タリ爭カ決
議断行ニ躊躇スルモノナランヤト則チ決議賛成ノ旨ヲ表ス
散時 大正八年十月十日午後九時十五分

十二月例會

一課題 可永正月之床飾ニ就テ

水村理事病気欠席ノタメ休講

散会後家元梶川元老早出佐藤池上三理事石塚鈴木宮佐川
三幹事ノ間ニ大正九年発会関スル相談アリ悉ク前例ニ準據スルトナシ
会費弐円福引品金弐拾銭ト前年度ノ費ヲ改メザルノ時間ヲ改且
発会式当日ハ元老理事ハ午前九時ヘデニ出席スベク先輩有ハ松竹梅ヲ
生ケテ床飾ヲナスヿニ定メ散会ス

以上

第出度大正八年ノ納会ヲ挙ゲ畢ル

大正九年記

謹賀新年

大正九年一月元旦

古流家元　松應会幹部

神田区末広町二十一番地
電車……外神田末広町下車

追而来る九日午後二時より原元に於て新年懇会式並に引き続き一椀同時刻過ぎ以来会員相互の親睦を厚くし併せて無礼の段用意有之候間相揃ひ御参会の程奉願上候

会費　金弐円也……

何品にても弐拾銭までの中芳賀品

御福引品

会員諸氏の御意向の都合も有之候間当日会の有之前日迄に御一報願上候

家元会員以上各位

謹賀新年

大正九年一月元旦

古流家元　松應会幹部

神田区末広町二十一番地
電車……外神田末広町下車

追而来る九日午前十時より午後四時まで家元に於て新年懇会式

と執り行ふ如き時刻用ひ所会者有之の趣旨及び時限来四月
迄に当所へ但し第会の節は此れ刺出の趣旨
当日出席希望にて其日年は高等学校の会員の新年
懇会式に別席出席ばさるも写く其節は会員全員及び試験
以内に何なりとも此方業に依れる福引品を有之の趣念
の為め申添ふ

家元師範代以下各通

以上の新年状の前例に依て発送し雑誌『華道』にも前年に倣ひ掲載
家の新年広告を掲出したり

傳書價額ノ改正

前年八月吉日附を以て價額値上の告知を發したるも更に改正せざりしかを
至りたるを以て次の如く改正發表す

相撲番付清福を考慮し陸奥秋田家元主役会議の結果
原料騰貴に付左記の如く改定し爾後変更を敢て
大正九年正月吉日

家元三家（古流生花）
同　重役

総司乃至師範者が其の資格順位に依りて傳書奇号の價額
高低より受くべき

▼伝書奇号を受けたる人は各其の師家の経るべし▲
▼師範以上の氏名を家元台帳に登録せられたるものとす▲

一師範以上ハ必ズ被受者ノ住所氏名書添付ス八八ニ

一心得（伝書奇手）（心得抄）（家元三家志目名書記同名書金額）金壱両五十才　家元補佐　家元会頭　家元師範代　家元師範

一初伝（折紙巻物口訣抄）金弐両八十才　金弐両九十才　金参　同金参両十才

一中伝（同）上　金参　同金参両十才　金参両弐十才　金参両四十才

一奥伝（折紙巻物口訣抄）金四　同金四両弐十才　金四両四十才　金四両六十才　金四両八十才

一皆伝（同）上　金参両弐十才　金参両四十才　金参両六十才　金参両八十才

一師範（折紙相伝抄）上　金参両五十才　金参両七十才　金参両九十才　金四両　十才　金四両参十才

一師範代（同）上

一会頭（同）上

家元、宣像会議ノ定ム所ニ依ル

注意ノ家元若ハ奥印ヲ乞ヒ時ハ奥印料トシテ（心得、初中奥、皆ハ各金五十才宛ノ外ニ）

右注意書ハ之ヲ熟讀スルトキハ『特』ニ（字）有益ニシテ意味異ナリザルト山本家ノ

要求ニヨリ『特』ニ一字ヲ削ルトモタリ

發　會

大正九年四月九日発会式挙行会長ヨリ讃揚ノ辞ヲ述ベ前年ノ副会長佐藤理事ニ就任ス発会益事終了ス夜七時散会ス散会後直ニ於テ次年度会ノ床飾ハ納会ノ節其ノ係リヨリ定ム壱式十八飾法ヨリ十二テ範ヲ会員ニ示スベシ又此ノ事ヲ年賀文中ニ書入ルベキヨリ早ノ申合セサナシテ一同退散ス時ニ午後九時十分ナリ

大正九年正月九日

二月例會

一課題　発会ニ於テ公表セザリシ若ノ休講ス

散会後役員会ヲ開キ次ノ条項ニ就テ決議ス。

一、今後松応会員ニシテ切ニアルモノ死亡シタルトキハ松応会之ガ開主トナリ故人ノ霊ヲ慰ムル為メ追善会ヲ営ミ従テ故島田理事ノ追善会ヲ流祖安藤涼宇先生菩提所ノ浄念寺ニ於テ営ミ而シテ其ノ期日方法ハ次ノ例会ニテ決定スル（池上、水村二理事提案）

一、池上、水村二理事前記菩提所ニ就テ席料経料等ヲ取調ベ大略ノ案ヲ立テ、三月七日集会ニ報告提示スル事（同）

一、天正七年十月三十三日ノ重役会議ニ於テ留保トナリシ流祖安藤涼宇先生ノ墓石修理並ニ墓域区画、祭祀営為等ヲ追善会後ニ於テ断行スル事（池上、水村二理事提案）

一、同年同月同日同会ニ於テ留保トナリシ松応斎代々之碑ニ浄念寺境内ニ建設シ其ノ周囲ニ松応斎代々ノ氏名年号等ヲ刻スル事（同）

九。

其ノ期日方法等ハ追テ定メル事又菩提所ノ土地借受交渉ハ池上、水村二氏ノ所致ニ任スル事（池上、水村二理事提案）

一、松応斎代々之碑建設ト共ニ松応斎家ノ故人トナシ功労有ル者ヲ記念スル為メ功労者ノ碑ヲモ相並ベテ建設シ其ノ周囲ニ功労者氏名年号ヲ刻スル事而シテ之ガ時期方法等ハ追テ定メル事（池上、水村二理事提案）

水村理事ノ第四第五提案理由ヲ次ノ如ク述ベタリ。

師範知ノ如ク古流ノ中興ノ祖デ有テ而モ我ガ松応斎家ノ祖先デ入ラセラレマスル安藤涼宇先生ノ師匠ノ先生ノ師弟子デアッタ松盛斎関本理遊サレ即チ松盛斎家元ノ祖先ガ世話役トナリ門弟子ノ建テラレタモノデアリマスガ何ノ世ヨリカ無縁トナリマシテ墓石ハ破壊サレテ笠石ハ墓地ノ一隅ニ捨テラレテアッタノヲ先代ノ家元現芳先生ガ修理ヲ加ヘラレテ現在ノ場所ニ出サレ四方目垣ニ依テ周囲ヲ劃セラレ墓ノ後方ニ一本ノ松ヲ樹

テうと而して追善会を勤行ナサレタト云フコデ有リマスハガ私ガ家元系譜ヲ
編纂スルニ方ツテ先生ノ墓ヲ調査致シタメ当時ハ慥ニ松ハ青々ト生ヒ茂ツ
テ居リマシタガ先年ノ大洪水デ地盤ハ後ニデ墓ハ傾キ松ハ枯死シテ更
ニ影ナク墓域ハ甚シク荒レテ居リマスルガ誰一人之ヲ修理スルモノナク又毎
年ノ事デアリマスガラ祭祀ノ行ハレルト云フモ有リニセズ仰墓ノ所在スラ之
ヲ知ル方ハ甚ダ少イノデアリマシテ流ヲ汲ム私共ト致シマシテモ荒廃スルニ委セ
テ祭祀ヲモ行フコヲセナイト云フコハ甚ダ其道ニ欠ケタコデアリマスルト同時ニ社会
ニ対スル花道界殊ニ古流ノ名折レデアリ恥辱デアルト信ジマスル乃チ大正
七年十月三十日ノ重役会議ニ今ハ故人トナラレタ島田サント私トガ其修
理ト祭祀トニ就イテ提案シタノデアリマシタガ戸川元老ノ時期尚早論ノ
一蹴ニヨツテ遂ニ其儘沿保トナツタ問題デアリマスガ今年ハ是非共之ガ実
行ヲ期シタイノデ茲ニ再ビ提起致シタ次第デアリマス云々

又オ五項ノ提案理由トシテハ特ニ皆様ノ御一考ヲ煩ハシタイノデ有リマス又ハ
我ガ流儀ノ有ツテ以来必ズヤ幾多タノ功労有ガアツタデ有ウト存ジマスルガ悲
シイ哉今日ニ於テハ之ヲ知ル人ノ何物モ無イノデアリマス御承知ノ通リ茶道ニ
於テハ茶人系譜トカ又ハ茶人ノ伝記ナドガ今日ニ伝ツテ居リマスガ花道界
ニハ悲シイ哉其等ノモノガ極メテ尠イノデアリマシテ否殆ド無イト云フテモ良イ程デ
アリマス古流ニ於テモ亦然リデ僅カニ松盛斎理拙先生ノ藏版印刷ノ宗
匠録ト云フ小サナ折本ナルモノハ有リマスルガ之ハ花名ノ陳列デアツテ其等ノ
人ノ伝記ハ毫モ記サレテ居ナイノデ有リマスルカラ何ノ人ガ果シテ何シタケノ仕
事ヲ為シタカ功労ガアツタカト云フコハ更ニ知ル由モナイノデアリマス即チ花道界ニ在リ
マシテハ何レ程ノ功労有ツテモ其人ガ一度ビ永キ眠リニ就キマスルヤ唯リ我ガ家
ノ冷タキ奥津城ニ納マツマシテ僅カニ親族知己ヨリテ香花ヲ手向ケラレ因
向サルヽト云フ過ギナイ有様デ其ノ限リ家元カラハ打忘レラレ流儀カラハ

更ニ願ミラレナイ事デ花道ノ方カラハ全然葬リ去ラルヽノデ有リマス斯ノ如ク
シテ死者ハ果シテ冥スヘデ有リマセウカ到ル処鬼哭啾々タラザルヲ寧口悼
ミマネバナリマセヌ是レ流儀トシテ又家元トシテ功労者ニ対スルノ道デアリマセウカ
又礼デアリマセウカ私ハ思ヒマス斯ノ如キハ寧ロ流儀ノ恥辱家元ノ恥辱
花道ノ恥辱デ有ウト存ジマス則チ此ノ意味ニ於キマシテ本案ヲ提出
致シタノデアリマスガ彼ノ家元系譜ヲ編纂致シマシタノモ亦此ノ意義ノ一
部表現デ有ルノデアリマス云々

一 以上各項ノ決議報告ヲナスベク三月例会ニ会員ノ出席ヲ促スコト

以上決議ス

大正九年二月七日

家元

元老 梶川理仙
理事 佐藤理寶
同 池上理谷
同 （西）島田理鶴
同 水村理篠
幹事 石塚理耀
同 鈴木理言
同 宇佐川理流

右記役員会後西島田理事ノ饗應アリ午後九時三十分退散

通知

二月七日決議ニ基キ次ノ通知ヲ發ス

相原義周多祥丈賀茂陳者来ラセリ松応会例会席上ニ於テ会議ヲ頃ク報告等ハ殆ト成ル及ビ義育ヲ家作ハ一排出ハ席ニ於テ実行結ヲ以テ西乃美隆ハ預ル

大正九年二月廿五

殿

会長 佐藤理寶

幹部

三月例会

一課題 桃ノ紅白

一水村理事課題ニ就テ簡単ナル講演アリ

一水村理事家元代リテ傳書値上ノ止ムナキヲ報告シテ左記印刷物ヲ配布ス

一水村理事二月七日ノ議事ニ就テ報告ヲナシ或ハ説明ヲナシテ之ガ方法期日ヲ定ムルヿハ幹部ニ一委サレタシト述ベ一同ノ快諾アリテ散会ス

拝啓愈御清福奉慶賀候陳者傳書原料漸々騰貴ニ付左記ノ如ク改定致度同此段御報告ニ及ビ候 敬具

大正九年三月十日

古流 生花 家元 三家 同 重役

総司ニ至師範有ガ其ノ資格順位ニ依リテ家元ヨリ受クベキ伝書齋號價額

▼伝書御号ヲ受ケタル、ニハ各其ノ師家ヲ経テルベシ▲
▼師範以上ハ氏名ヲ家元台帳ニ登録セラル、モノトス▲
▼師範以上ニハ必ズ被受者ノ住所氏名書添付アルベシ▲

伝書御号 壱

一心得（折紙 心得抄）金壱円七十銭 組 家元補佐 家元師範代 家元師範

一初伝（折紙 口訣抄）金参円五十銭 金参円六十銭 四 円 金四円弐十銭

一中伝（同 上）金参円七十銭 金参円八十銭 四 円 金四円六十銭 金四円四十銭

一衛（折紙 家元系譜）金 四 円 金四円弐十銭 金四円五十銭 金四円八十銭 金五円十銭

一奥伝（折紙巻物 口訣抄）金参円八十銭 金 四 円 金四円弐十銭 金四円六十銭 金四円九十銭

一皆伝（同 上）金四円弐十銭 金四円四十銭 金四円七十銭 金 五 円 金五円参十銭

一師範（折紙 祖伝抄）

一師範代（同 上）

一会頭（同 上）

●注意 家元表ニ黒印ヲ捺シタル書類トシテ 家元表ニ黒印ヲ捺シタル書類トシテ 渡申候 金五十銭 金壱円 加フ

而シテ散会後役員会行ハルル結果次ノ如シ

(一)幹部ニ任ノ追言会営為方法時期ヲ定ムル前ニ於テ先ヅ建碑ヲナシテ然ル後法要ヲナスコトヲ可ナリト決シ池上木村ニ担当ノ建碑豫算調査ヲナシタル報告ヲ俟ツテ四月七日ノ集会ニ於テ一切ヲ決定スル

(二)松應会ノ会費五拾銭ヲ拾銭ニ例会費拾銭ヲ弐拾銭ニ改正シ六月以後ノ新入会者ヨリハ本年度ノ会費トシテ出額ノ徴収スル

(三)大正八年二月吉日附発表配布ノ印刷物中会費其ノ他ノ一部分ヲ改メテ印刷ヲナシ一般ニ配布スル但シ其ノ末尾ニ看板席札ノ改正雛形（次項参照）ヲ明示スル

(四)家元ニ家ニ於テハ顧問ノ名称ヲ用フルヲ禁ジアリシニ

係ハラズ（家元三家ニ顧問ノ制ヲ設ケズトノ折合ヤアリシカ家元系譜ニ其ノ目キヲ以テ記トナス）大正七年花友会大会ノ席上松盛斎山本家ハ此ノ禁制ヲ冒シテ早部其他一二名ニ顧問ト記シタル席札ヲ用ヒテ松応斎家ヨリ難詰セラレントシタル事実アリ大正八年秋花友会大会ニモ山本家ニテハ前会同様ノ席札ヲ使用シテ其非ヲ敢テセリ松藤斎池田家亦山本家ノ非行ヲ見做シ致枚ノ顧問席札ヲ使用シテ山本家ノ重鎮吉岡理秀氏ヲシテ苦笑セシメタル事実アリ我ガ松応斎家ヨリ両家ニ対シテ抗議ヲ申込ム筈ナリシモ之ヲ止メタル松応斎家ニ於テモ顧問ノ制ヲ設ケ其ノ看板席札ニ至ルマデ『松応斎家』ノ四字ヲ記シテ其ノ所属ヲ明カニスベキヲ此ノ旨両家ニ対シテ通告スル

（五）和後看板ノ焼印料壱円ヲ徴収シ家元所得トスルヲ焼印ハ幹部ニ限リテ押捺ヲ借出スヲ得ルヲトシ其ノ日限ハ三日間ヲ超ユルヲ得ズトスル

（六）同三月木村理事ニ対シテ松盛斎山本家元ヨリ相談的ニ故島田理事ノ世間題ニ就テ漏シタル意見及ビ無製取消意見ニ就テハ松応斎家ニテハ断ジテ山本家元ノ主張ヲ退クルヲトシ此旨木村理事ヨリ山本家ヘ回答スルヲ但シ回答ハ文書ニ依ルヲトナシ幹部ノ氏名ヲ連ネ書スル

（七）例会毎ニ臨席スル都竹聞記有ニ対シテ回ヒリ新聞記者ト云ヘル公職ヲ理解シ十分敬意ヲ表スル

（八）則チ冒頭ノ理由趣旨ニ基キ岡本理福、石塚理耀、鈴木理言、勝元理景、石川理周、山本理良、小川理鶴、塚原理鋼ノ八氏ヲ顧問ニ推挙スル。又宇佐川理統、高橋理登女、奥村理鶴ノ三氏ヲ補佐ニ推挙スル。

(九)小川理香、田辺理司、本間理仁、横田理留、高杉理登女、塚原理綱、勝理景、井上理蝶、八木理爽、小川理鶴、村尾理花、小林理香、山本理良、小森理公、十四氏ヲ幹事ニ推シ大正八年三月七日迄加決議ニヨリテ推薦シタル石塚理耀、鈴木理言、宇佐川理流三氏ニ合セテ都合十七名トス但シ幹事任期ハ次ノ理由ニヨリテ一年トシ理事会之ヲ選任推薦スルモノ

松應会幹事ハ則チ家元松応斎家ノ幹事デ実際ニ幹事ト責任ヲ十分尽シ得ラルルデ有ウトノ信任カラ年限ノ先後ノ年齢ノ老若、顧問、補佐、会頭、師範代、師範ナド云フ資格階級ノ高下ニ拘ハラズ理事会デ選任推薦スルモノデアルカラ決シテ名義ヨリノ幹事デハナイ即チ適材ヲ適處ニ据ユト云フ大方針ノ下ニ割出サレタ選任方法デアルカラ此ノ大方針ヲ徹底的ナラシムル必要ガアル

勢ヒ陶冶ヲ行フヲ要スル是故ニ任期ヲ一ヶ年トシテ専ラ人材ヲ得ルニ勤ムル所以ナリ

(十)松応会例会ノ大要及ビ幹事選任方針ヲ記シ元老理事幹事ノ氏名ヲ各々イロハ順ニ記シテ会場ニ掲示スルモノ

以上決議ス

大正九年三月七日

家元

元老　戸川理正

理事　佐藤理寶

〃　早出理秋

〃　池上理谷

〃　水村理筱

散会正ニ午後十時ナリ

幹事　石塚理耀

梶川元老ハ病気欠席
玉川元老ハ事故欠席
島田理事遠慮欠席
加藤理事ハ中途退席
報告ヲ了ス

通告（廻状文）

三月七日決議ノ趣ニ基キ左ノ通告ヲナス

拝啓高覆厚而清迪奉大賀候陳者去月二十日ノ御尊意ニ対シ到底一人一家ノ志思考ニ依リテ左右シ難キ大問題且ツハ流儀ノ消長ヲ及ボスベキ後ノ大事件ト思考ハ為ノ其旨相認ノ之版端書ニテ御按拶ノ内延期相願置ハ処漸ク去ル旨ノ松応会例会散会後ノ役員会ニ於テ衆議決定致ハ其旨記御覧ニ供シテ御挨拶ニ代ヘ申上

一名家ノ跡継宮ヲ之ヲ新絶セシメザルコトヲ故人ノ功労ニ酬ユルノ礼ナリ殊ニ世襲ナリ芸術上ノ継号ヲ継ダル以上到底戸籍上ノ異姓相續ヲ理由トシテ否ムヲ理ニ於テ当ラズ是故ニ戸籍上ノ姓ハ柿沢ナルモ芸術方面ニ於テハ毎ニ松川前島理鶴ナルコトヲ婚ゲザル迄ナラズ斯クスレバコソ名家ノ跡継ヲシテ生前ノ功績永ヘニ不朽ナラシム

一世襲取消ナル者ハ別ての外ナリ実ニ宗元御都合次第ノ朝改暮変ト云フベク斯クテハ仮令人モ安ンジテ斯道ノ為ノ宗元ノ為メニ如カザルノ心ヲ以テ絶ツベク延テハ斯道ノ盛衰消長ニモ関スベキ大事

なれば松盛斎家松藤斎家の方々はいざ知らず松応斎家の一門一族は断じて世襲取消の申相談には応じ難し又松応斎家としては本の通に絶対に賛意を表し難きを以て當家幹部の名を連ねて松盛斎家へ決の旨政されたく

右決議ス

戸川理正玉川理調 梶川理仙 早出理秋 佐藤理宝
池上理谷 加藤理作 石塚理耀 鈴木理言 宇佐川理鏡
水村理筱

甚だ失礼ながら右記載を松應斎家の意のあるを俟て兼相談の書中を以て申候拝迄如此に申上候早々敬具

大正九年三月十日

水村理筱

山本理吟先生 侍史

通告

三月七日決議の趣を基き松盛斎松藤斎両家に対して左の通告致す

拙稿の両家に対する体者既に御記知の如く変元一家北会合席に別して三家の合同席を顧問の席札を禁ずる旨の申合せ有之候然る家譜中に顧問の欄を欠如せる次第有之候然る處御当流一昨年及び昨年秋の花友会大会席上より顧問の席札を使用せず松藤斎家に於ては御当流の天れる看做ふ彼ありて昨年の大会より是は当家同様顧問の席札を立てられし事

一〇七

所面会に対し抗議を申出づべき手続きを運び居りしも斯くては
徒らに紛擾を醸すの虞れ有之候を以て当家に於ても顧問を
置くことに取定めの外其の所属を明瞭ならしむる為め看板及び
席札に『松応斎家元』の数字を表示することを
決定致候間右伺候間了承の旨御通知及び御早速教具

大正九年三月十二日

松応斎家元
松応会々長　佐藤理寶

松盛斎家元山本理吟殿
侍史

拝啓愈々御清祥奉慶賀候扨て御承知の如く家
元一派の会合席は別として三家の合同席または顧問の席札
を標示する言の申合せ有之候処孫家元系譜中に顧問の欄を欠如
せる為め有之候ものと松盛斎家元系譜中に顧問の欄を欠如
せる為め有之候ものとは一応本年及び昨年秋の花
友会大会席上に顧問の席札を使用致されし当家に於ては松盛斎家
の実れに看做し候間昨年の大会に松盛斎家同様顧問の席札
を使用致されし事に対し抗議を申出づる事甚だ寒心に堪えざるものに有之候間両家に
対し抗議を申出づる事甚だ相成兼ねし候へども敢て紛擾を醸
すの惧れ有之候を以て当家に於ても顧問を置く事に取定め候外其の
所属を明瞭ならしむる為め看板及び席札に『松応斎家』若しくは
『松応斎家元』の数字を表示することを決定致しに付花候而
御了承の上御通知及び御速教具

大正九年三月十二日

松藤流家元池田理英殿
侍史

松応流家元理事
松応会 会長 佐藤理寶

達示

三月七日決議（二）（三）ニ基キ下記印刷物ヲ作リ一般ニ配布ス

松應会月次例会と告示

……生花の研究と伝書の講演……

一松應会では花を生けて研究するに更に一歩を進めた方法に據る外無い伝書の講演を致して居るのです

一講演は例へば伝書に『悪子花一花一葉の事』『船三艘の生方』『霞隠の櫻』『霧隠の紅葉』『床飾』『花衣桁』とある所は一に実物で分能心と示して伝書と対照して講義をするのです

一例会は毎月七日午後一時より家元手加減に於て開催するのです

一松応会の会員は毎回出席して生花の研究は勿論伝書の講演を聴くことも又生花や伝書に就ての質問も出来ます

一松応会は松応流家元の系譜に登録されてある方と其他推薦されて来た方とは当然会員になつて貰ひ又未だ師範許状までに到達（級の高い方）にも奮て加入会ある様勧めすることになつて居ます

一而して会費は月拾銭の割合で一年分を一時に納めて貰ふのです

但し例会に出席の節には出席の会費として金弐拾銭を出席すること

一幹部に於きましては松応会のなる為に毎意義ならしめ度き為と絶えず努力して居るのですから会員の方でも幹部の意のある所を察とせられ松応会の為に重して無理な義務ならしめない様に奮励致します而して

松応会員は常に斯道開発の先駆者たらんやう皆様に切望して止みヨセん

一松応斎流では看板や席札の表示を次の如く改めることゝなりましたから左の雛形通り書夫々御願ひます

看板

家元 古流生花教授 松応斎家○○ 松○斎○○理○

席札

松応斎家 ○ ○ 松 ○ 斎 ○ ○ 理 ○

注意
松応斎○○とナルハ師範ヨリ驕慢ニテ階級ヲ表示ニテ悪シデス

以上

大正九年弥生吉日

古流 家元 松應會
会長 松世斎佐藤理宝
副会長 松花斎加藤理竹

三月七日決議（十）ニ基キ次ノ掲示ヲナス

掲示

一例会ハ毎月七日午後一時ヨリ開会ト御承知願ヒマス

一例会当日ハ茶菓料トシテ金弐拾銭ヲ申受ケマス

一会員ノ方々ハ毎回奮テ御出席ノヤウ希望致シマス

一未ダ入会サレヌ方々ニ入会ヲ御勧メ下サイ

一伝書中疑義ヤ生花ノ研究ニ関スル御質問ヲ歓迎致シマス

一会員ノ方々ハ研究上ノ新シキ試ミヤ有益事柄ハ進ンデ御

家元 松應齋千羽理君
神田区末広町二十番地
電車水道橋停留場下車

發表下サイ

一幹部デハ絶エズ斯道ノ向上發展ニ努力シテハ居リマスガ尚ホ所気付ノ点ヤラガ遺憾ナリ幹部マデ申出下サイ

一松応会ノ幹事ハ此位ナラ幹事トシテノ責任ハ充分お尽シ下シ

ヤウト云フ信任カラ年齢ノ長幼ヤ資格ノ高下ニ拘ラズニ理事

舎デ選任推挙スルノデス從テ此選任方針ヲ徹底サセル為

メニハ幹事ト陶汰ヲ要シマスノデ幹事ノ任期ハ一年トシテ

ヤリマス

一松応前家ノ役員ハ左ノ通リデス

元老　松濤斎　戸川理正（姓名イロハ順）

同　松蘭斎　梶川理仙

同　松柏斎　玉川理調

理事　松幽斎　池上理谷

同　松月斎　早出理秋

同　松花斎　加藤理竹

同　松壮斎　佐藤理宝

同　松如斎　水村理筱

同　亜　松川斎　島田理鶴

幹事　松景斎　石塚理翹

同　松川斎　本間理仁

同　松吟斎　小川理鶴

同　松梅斎　小川理香

同　松美斎　勝泰　理景
同　松友斎　横山　理留
同　松林斎　高橋　理登安
同　松鶴斎　田辺　理司
同　松琴斎　塚原　理綱
同　松琴斎　村尾　理花
同　松公斎　宇佐川　理統
同　松提斎　井上　理蝶
同　松喜斎　山本　理良
同　松隆斎　八木　理爽
同　松窓斎　小林　理香
同　松西斎　小森　理公
同　松聖斎　鈴木　理言

以上

大正九年弥生月

臨時役員會

（古流表元）会長　松應會
副会長　佐藤　理寶
　　加藤　理竹

花友会例会散会後家元松応斎家ニ於テ臨時役員会ヲ開キ次ノ如ク決議ス

一三月七日議事（一）ニ就イテ池上木村ノ二理事ヨリ建碑豫算調査ノ報告及ビ建碑趣意書ノ原稿提示アリ異議ナシト印刷ニ付スルコトヤリ此ノ印刷物ハ四月七日ノ例会席上ニ於テ配布シ

大三其道歩ヲ圖ルヿ但シ建碑成ルノ時ヲ以テ建碑式兼
追善會ヲ営ムヿ

一四月七日以テ幹事会ヲ開キ例会ニ於ケル研究発表ニ対シテ
天地人ヲ附シ天地人以外ハ本人ノ希望ニ應ジテ其可否ヲ
断ジ且ツ手ヲ加フルヿ及ビ研究発表ハ材料ヲ一色ニ揃ヘキヿ
尚ホ此ノ外良好ナル方法ナキヤヲ集議シ松應会ノ面目ヲ新
スルヿ

以上決議ス

大正九年三月十九日　午後五時開会同八時閉会
家元立会
元老　戸川理正
同　玉川理調

三月七日決議(八)(九)三月十九日決議ヲ二項ニ後リ次ノ発信ヲナス
拝啓愈御多祥奉南山ノ陣者今回重役会ノ推薦ヨリ貴下家
元松応就任願同ヒ奉様相成ハ祝ヒ来ル七日午後三時ヨリ

理事　佐藤理宝
同　二世島田理鶴
同　池上理谷
同　水村理筱
幹事　石塚理翟
同　鈴木理言
同　宇佐川理統

信

昇格証書授与式挙行相成候間（万障）相繰出席相成候様
改度此段御案内申上候　敬具

大正九年四月三日

古流家元　松應齋家幹部

昇格顧問二人（各通）

推薦書御添付の上幹事南山氏外六人倉重役会の推薦をもつて本家
元松応流家顧問に御昇格の外尚ほ松応会幹事に選任致候に就
ては来る廿七日午後三時より昇格証書授与式並に幹事会挙行相成り間
万障繰合せ御帰京有之様御取計方御案内申上候　敬具

大正九年四月三日

古流家元　松應齋家幹部

松應会長佐藤理寶

昇格顧問幹事六人（各通）

推薦書の通り南山氏外倉重役会の推薦をもつて本家元松応流
家顧問に御昇格の上幹事に就任致候に就て来る廿七日午後三時より昇格証書授
与式挙行致候間万障繰合せ御帰京有之様御取計方御案内申上候　敬具

大正九年四月三日

家元会頭　奥村理鶴殿
家元会頭　宇佐川理統殿（各通）

古流家元　松應齋家幹部

相談愈ゝ多祥なる由山吹氏より会員主任会の推薦すること考へ家元松応社に昇格願ひ外名目松応会解散するに就て任務ゝ終結しては来る七日午後二時より昇格祝賀式開催する会員所定の通り諸一般出席有之ゝ様御通知此段保名氏より申上ゝ

敬具

大正九年四月三日

古流家元 松應齋家幹部
総会長 佐藤理寶

昇格補佐幹事（各通）

拝啓愈々御多祥奉慶山吹氏より会員主任会の推薦すること考へ家元松応社に昇格願ひ外名目松応会解散するに就て任務ゝ終結しては来る七日午後二時より昇格祝賀式開催する会員所定の通り諸一般出席有之ゝ様御通知此段保名氏より申上ゝ

敬具

大正九年四月三日

総会長 佐藤理寶

選任幹事宛（各通）

万障一排して出席相成ゝ様御通知申上ゝ

敬具

大正九年四月三日

総会長 佐藤理寶

四月例會

一 課題 霞隠の櫻

水村理事講演の時間、餘裕アラザレバ花友会例会に於テ詳説スベシ（花友会例会四月十九日課題ガ幸ニモ同一ナレバトテ）トテ休講ス

三月七日決議八 同十九日臨時役員会決議オ一項ニ基キ昇格証書授与式行ハレ夫々証書ノ授与アリ終リテ水村理事建碑及ビ追善会

この旨幹部の意向を報告し次の印刷物の配布と寄附金の可成的
早目例会迄に残餘の分は六月例会のはじめ締切りの事に付言
こしたり

建碑趣意書

祖先や累代の家元の祭祀を営むことは勿論流儀に於ては尊んで
や私共の力めであり義務と存じます、處が中興の祖たる松応斎あ
藤流学先生の奥津城は宗元系譜にもある通り、浅草日新堀端深久
町浄土宗化用山浄念寺に在りますが、其の所在すら流儀の方々に知られ
て居られる程ですから歳月経つても祭祀の行はれた例しなく、唯その之を
知つた志ある人々の手によつて時折、香花を手向けられるに過ぎないの
で、従つて、先年の大洪水で墓域は荒れ碑は傾いても、修繕を加へる人と
しても無い處から、之が古流の中興の祖の碑かと思はれる計りで、実に見る
影もない淋しい姿になつて居ます。

それに松応斎家累代の奥津城も帝都の地に於ては、香花を手向けられても、
其れすら出来ぬといふことは、不言不語裡に訓化教養をなす美しい礼
儀道にとつて甚だ遺憾至極である計りでなく、一面の追善法要すら
営まれぬといふに至つては、斯の道の名折れであり又大いなる恥辱であ
らねばなりません、乃ち此の意味に於て、是非とも傾けて祖先の碑を修理し、
家元代々の碑をも建てたいとは、松応斎家の幹部に於ける先年来の宿題であ
りましたが、今度漸く其の議が熟して、多年の宿望を実現せむることゝ
なつた其の上に、松応斎家に功労ある所謂名士の碑も共に建設して
祭祀を営み冥福を祈ることゝなりました。仍て松応斎家の流を汲
まれる方々は――――金弐円より

師範以上の方々は――――金壱円より

お社中の方々は――金壱円より

夫れ〴〵応分の御寄附を願つて、今回の此の企画を遂行致したいと存じます。

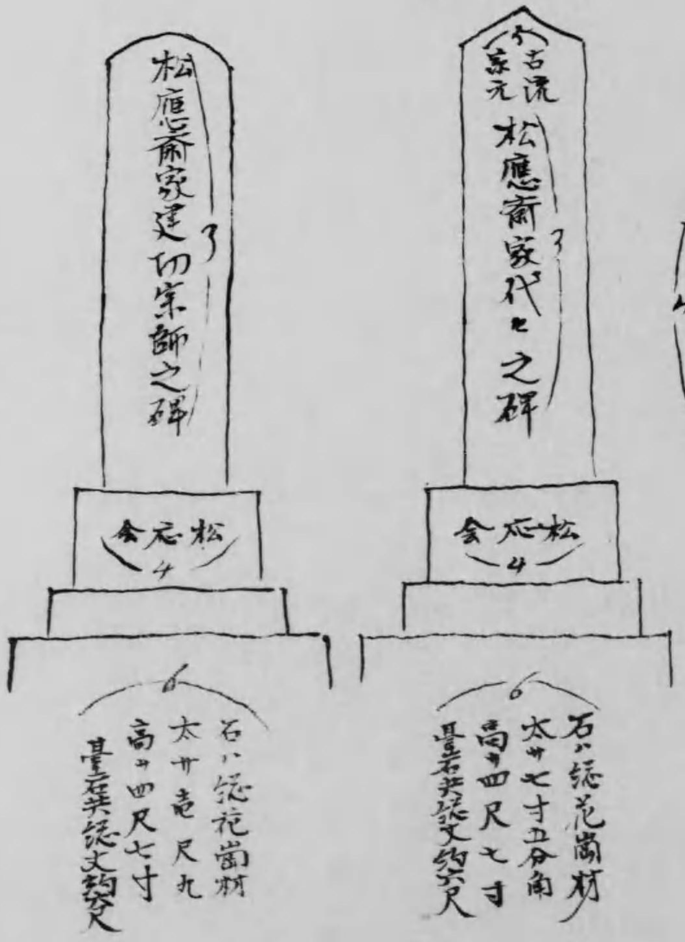
左らして御寄附に対しては、松応会から一々受領書を差上げ、御寄附の号額と芳名とは、松応斎家の記録に止めて永く保存致します。加之、竣成の暁は皆様の御臨場を乞ふて建碑式を兼ねた追善会を営み芳々一切の御報告を申上げることに致したと存じます。尤れば皆様は右の意を汲み取りの上、何卒奮つて御寄附下さる様、茲に其の趣意を陳べて偏に御願ひ致すと共に、建設場所、修繕並に二基建設費見積額及び二基の略図を左に記して、御参考迄に御覧に供します。

一、建設の場所

一、修繕並に二基建設費見積　約七百円

浄土宗浄泉寺浄念寺境内

略図



以上

大正九年四月七日

發

元老
同　松濤齋戸川理正（姓名イロハ順）
同　柏蔭齋梶川理仙
同　松柏齋五川理調

少理事
同　松巒齋池上理谷
同　松月齋早出理秋
同　松花齋加藤理竹
同　松江齋佐藤理宝
同　松如齋水村理筏
同　松川齋島田理鶴

起

幹事
同　松景齋石塚理耀
同　松川齋本間理仁
同　松吟齋小川理鶴
同　松柳齋小川理春
同　松美齋勝元理景
同　松友齋横山理留
同　松林齋高橋理登
同　松鶴齋田辺理司
同　松琴齋塚原理佃
同　松琴齋村尾理花
同　松公齋宇佐川理統
同　松堤齋井上理蝶

(2)

人

同　松喜翁山本理良
同　松隆翁八木理爽
同　松窓翁小林理香
同　松雨翁小森理公
同　松雲翁鮫木理言

一三。

松杉翁岩村理桃
林宇右衛門

右配布終リテ散会次デ幹事会ニ移ル。決議次ノ如シ

(一)三月十九日臨時役員会決議ノ件々考慮熟議スル事

(二)菖蒲池ヲ花ノ砦宛ヲナシ一定スル事

(三)發起人ノ寄附金ハ拾円以外トスル事

(四)寄附金領収書ハ往復ハガキ大ノ用紙ニテ礼文受領書ヲ送ル事

(五)碑ノ一方ノ臺石ニ自然石ヲシ又寄附金ノ集リ具合ニヨル碑ノ模様等其外建碑修繕追善会ニ関スル悉テハ池上木村二理事ノ手腕ニ一任スル事

以上決議ス

大正九年四月七日家元立會

会長　理事　佐藤理寶
副会長同　加藤理竹
理事　早出理秋

理事　池上理谷
同　水村理筱
幹事　石塚理耀
同　鈴木理言
同　宇佐川理統
同　水間理仁
同　山本理良
同　八木理爽
同　小川理香
同　小林理香
同　高橋理登女

寄附金受領書

四月七日決議(四)ニ基キ次ノ礼文受領書ヲ印刷ス

一金　也

大正九年　月　日　住所

理事　杜中　松齋　理

最線

啓愈々御清穆奉慶賀候陳者今回墓碑修繕並碣碑建設の儀相企候處多大の賛意を表せられ金　円　拾銭也御寄附被成下候段誰有拝謝奉り候茲に謹而御礼旁御厚志拝受の印迄斯の如くに御坐候　再拝

大正九年　月

古流家元松應齋家

松應会

役員一同

殿

五月例会

一課題　燕子花之葉組ニ就テ

木村理事寄附金受領之為メ多忙ヲ極ム本間幹事亦之ヲ補助スル等講演時間ニ餘裕ナク簡單ニ課題ニ就イテ要旨ヲ講シ其ノ詳細ハ來ル十九日花友会例会ニ於テ講演スベキト告ケ散會ス

六月例会

一課題　草物

寄附金受領ニ忙殺サレ木村理事為メニ休講ス本間幹事亦受領事務ニ當ル

建碑竣成ノ下見　附準備

大正七年十月二十三日ノ重役会議ニ於テ島田木村二理事ノ建案時期尚早ノ故ヲ以テ留保トナリ建案者ノ一人島田氏逝キテ大正九年二月七日更ニ池上木村二理事ヨリ役員会ニ提案サレテ即時可決トナリシ流祖ノ墓碑塋域ノ修理家元及ビ功労者ノ碣碑二基ノ建設並ニ祭祀宮嶋ノ問題ニ対シ尓来池上木村二理事ハ寺院ヤ石工トノ交渉ヨリ墓碑塋域ノ修理碣碑二基ノ形態寸法建設方法ニ至ル迄一切此等是ニ畫シ尚ホ池上理事ハ植木職ニ交渉ヲ進メ

水村理事ハ自ラ碑銘ヲ撰シ碑ニ刻スベキ文字一切ニ就テ書家紫田機堂氏ト往来幾十回ナルヲ知ラズ一方寄附金ノ成績甚ダ良好ニシテ趣意書記載見積額ノ殆ドニ倍額ニ達スルノ盛況ヲ呈スルアリ是ニ於テカ池上水村二理事ハ更ニ換替ヲナシテ趣意書所載ノ物ヨリモ増大セシメントル即チ四月十二日之ガ修理建設ヲ請負ハシメラレタルモノ五月八日ニ至リテ換替ヲナシ工事追拵ニテ六月末日全ク之ガ竣成ヲ告グルニ至レリ而シテ一度ビ建設及ビ修理材料ノ孝院境内ニ運バルヽニ至レヤ水村理事毎朝必ズ風ニ現場ニ出張シテ一刻片時モ監視ヲ怠ラズ池上理事亦屢々見廻リテ水村理事ト共ニ其ノ失ナキニ努メタリ則チ斯ノ如クシテ修理竣成シタルモノ及ビ新調サレタル位牌等次ノ如シ

石ハ 総花崗材
竿 六尺三寸 出六尺
太サ 壱尺角
臺 弐尺角
厚サ 壱尺
下石 巻尺弐本
壱尺弐本
巾 壱尺
厚 五寸

竿石ノ右面上段

中興松應齋安藤源宇
二世松應齋藤邨三樂
三世松應齋関本理遊

文化四丁卯年十二月二十六日寂
年号未詳
嘉永二乙酉年七月十七日寂

四世松應齋千羽芳州　安政四丁巳年九月五日寂

五世松應齋千羽理芳　明治癸巳年三月三日寂

此間九寸文字大サ壱寸　此間九分　此間壱尺壱分文字ノ大サ六分

合計此間弐尺

臺石ノ右面中央

發議主動者

松幽齋池上理谷

松加齋水村理筱

臺石ノ裏面

元老

松涛齋戸川理正

松蘋齋梶川理仙

松柏齋玉川理調

發

理事　松幽齋池上理谷

松月齋早出理秋

松花齋加藤理竹

松壯齋佐藤理宝

松如齋水村理筱

亡　松川齋島田理鶴

起

幹事　松景齋石塚理耀

松川齋本間理仁

松吟齋小川理鶴

松梅齋小川理香

人

仝　松美斎勝元理景
仝　松友斎横山理留
仝　松林斎高橋理登女
仝　松鶴斎田辺理司
仝　松琴斎塚原理綱
仝　松琴斎村尾理花
仝　松公斎宇佐川理統
仝　松堤斎井上理蝶
仝　松喜斎山本理良
仝　松隆斎八木理爽
仝　松窓斎小林理香
仝　松雨斎小森理公

仝　松平斎鈴木理言

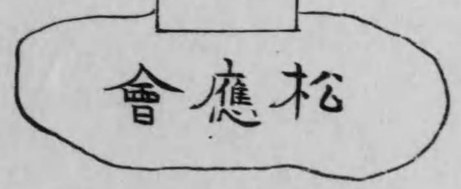
大正九庚申六月建之

岩村吉太郎
林宇右衛門

臺石ノ左面中央

柴田機堂書
高仙鶴刻

松應齋家建功宗師之碑

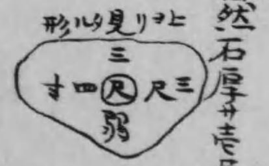


石八 総花崗材

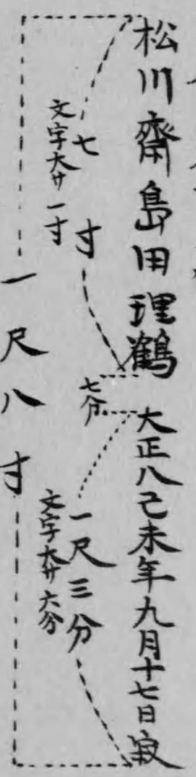
竿 六尺五寸 出六尺今寸

太サ 徑壹尺丸

臺 自然石厚サ壹尺



竿石ノ右面上段



臺石ノ裏面

發起人

元老 松 涛齋戸川玘正

仝 松 濂齋梶川玘仙

仝 松 柏齋玉川理調

理事 松 幽齋池上玘谷

同 松 花齋加藤玘竹

仝 松 壯齋佐藤理寶

仝 松 如齋水村理筱

仝 松 川齋島田理鶴

幹事

全　松景齋石塚理耀

全　松川齋木間理仁

全　松吟齋小川理鶴

全　松梅齋小川理香

全　松美齋勝元理景

全　松友齋横山理留

全　松林齋高橋理登女

全　松鶴齋田辺理司

全　松琴齋塚原理綱

全　松琴齋村尾理花

全　松公齋宇佐川理統

全　松堤齋井上理蝶

全　松喜齋山本理良

全　松隆齋八木理夾

全　松窓齋小林理香

全　松雨齋小森理公

全　松呼齋鈴木理言

大正九庚申六月建之

發議主動者

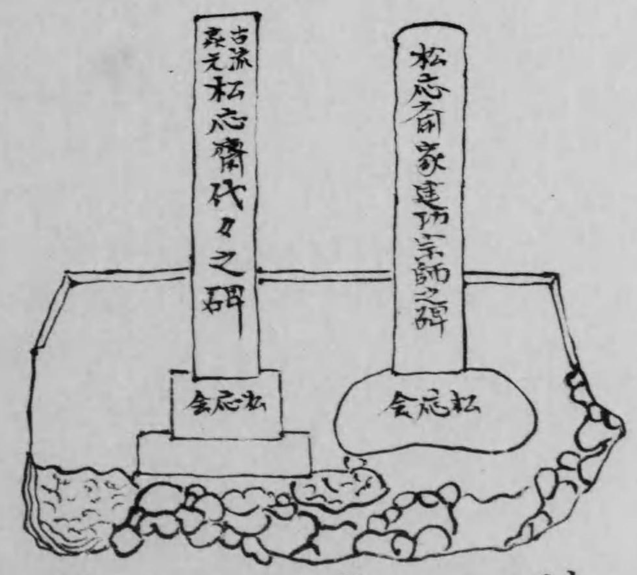
岩村吉太郎

林宇右衛門

松幽齋池上理谷

松如齋木村理筱

碑域繫圖



柴田機堂書
高仙鶴刻

地坪
向口 北向
奥行 八尺五寸

地盛
高サ 壱尺
周囲石大小
巻十七ケ
裏囲大屋石
五ツ本

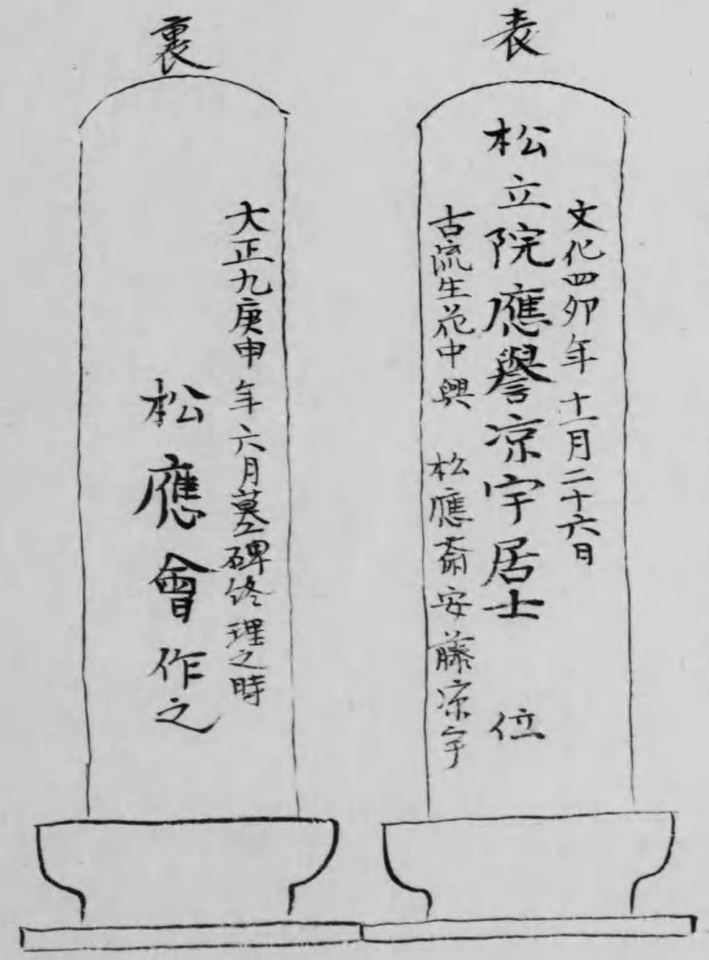
一樹木 一本
一茶梅 一本
一水珊瑚 一本
一八手 二本
一柊 一本
一霧島 一本
一山蘭 二ヶ所
一笹 一株

以上

一椎 一本
一木犀 一本
一青木 二本
一木斛 四本
一翌檜(アスナロ) 一本
一蘭 一株
一万年青 二ヶ所
一夾竹桃 一本

安藤涼宇先生墓碑ニハ花蘭石二枚ヲ基石下ニ布キ四目垣ヲ
以テ周囲ヲ劃シ茶梅、夾竹桃、霧島ヲ其ノ囲内外ニ植ル

新調セル位牌ノ畧圖



早出理事ト建功碑

家元代々碑ノ臺石ニハ早出理事ノ名発起人トシテ刻セ建功碑ノ臺石ニハ発起人トシテ其ノ名ヲ缺ケリ是特ニ本記アル所以理由次ノ如シ

昔六昌早出理事ハ池上理事ヲ訪ヒテ左ノ会話アリ

早出理事曰ハク自分ハ故島田氏対シテハ怨恨骨髄ニ徹スルモノアリ故碑ノ台石ニ発起人トシテ拙者ノ名ヲ刻スルヤウナケハ用捨アラシ且島田氏ヲ才一トシテ建テラレシ建功碑ノ故ニ此碑ニ我カ名ヲ刻セラルヽヿハ之ヲ欲セス刻名ノヿハ今ヨリ堅ク御免ヲ被ル置クベシ

池上理事曰ハク其ノ何レニシテモ生前ニ於ケル感情ヲ死後ニマデ延キ以テ建碑問題ニ当ルハ他ノ間ニ妙ナラズヤ

早出理事曰ハク自分ハ飽ク迄固持セント欲ス是非トモ然ク敢計ハ

レンフヲ。

池上理事曰ク。然ラバセメテ家元ノ碑ノ墨石ダケニテト発起人トシテ刻名スルヿ為シテハ如何。

早出理事曰ク。然ラバ左ウ云フヿニ取計ハレタシ。

池上理事曰ク。何ト云ハヽカハ知ラザレド先ヅ左ウ云フヿニシテ同君ニ通ズベシ。

早出理事曰ク。何ウデ左ウ云フヿニ

池上理事則チ次ノ問答ヲ提ゲテ木村理事ニ語ル。木村理事ノ曰ク寔ニ困ッタヿナリ先ヅ最ウ一度自分ヨリ早出氏ヲ説キテ然ル後何レニ決スルモ遅カラガンベシト五月七日早朝木村理事ノ雨ヲ冒シテ早出理事ノ其ノ邸ニ訪フ早出氏稽古ニ出デテ家ニ在ラズ木村理事更ニ書面ニテ『君子ハ其ノ罪ヲ悪ミテ其ノ人ヲ悪ミズトカ況ンヤ生前ニ於ケル感情問題ヲ提ゲテ其ノ死後ニ責ムル如キ決シテ君子人ノ為サザル所ナリ後年史家ノ慧眼ニ過ギテ董狐ノ筆ヲ揮ハルヽアラバ如何ニ名誉ト人格トヲ大イニ反省スル所アルベシト』ト意ヲ送リシモ之ニ対シテハ何ノ答ヘモナク八日池上理事ニ対シテ『拝啓過日ハ朱上失礼仕リ扨昨朝木村君建碑ノ件ニツキ出有之処不在ニテ失礼致ス右件ニ貴君ヘ申上ル通リノ次第ニ付家元ノ方ヘハ発起人名前附ル方ヘハ御断リ申ス貴君ヨリ木村君ヘ御伝言トシテ御申ス有ル日清草区寿町三八番地池上理吾郷麻布区本村町一九早出理秋ノ書ヲ寄セ来ル木村理事曰ク詰ル曰ク女子與小人為難養ト嗚呼悲哉ト乃チ一ヶ月刻ノ一ヶ月貴ル所ハ是レ左ノ理由ナリ

次上

斯クテ一切該成サルヤ木村理事ノ手ヨリ発起人一同ニ対シテ下見ノ允ノ旨ノ信書発セラレ六月十六十七ノ両日ヲ以テ下見会行ハレタリ発起人中其ノ通

知ニテ見分ヲナシタル氏名左ノ如シ

但シ十六日朝来陰晴定マラザリシモノ陰雲漸ク重疊シテ十一時半頃ヨリ
俄雨愛々トシテ至リ一時頃トモナルヤ猛雨沛然タル殆ド車軸ヲ流スニ似タリ
雨天頃迄通知ヨリ僅ニ左ノ三氏ヲ見タルニ過ギズ。

家元　玉川理調
佐藤理寶

右三氏則チ雨中ニ下見ヲナシ池上木村ノ二理事ト共ニ建碑式及ビ追善会
挙行ノ日取ヲ六月二十八日ト定メタリ而シテ理言銘木幹ヲ病気ノ故ヲ
以テ不来ノ旨使者ヲシテ特ニ言ヒ送ル。又戸川老ハ十六日差支アリトテ前
日ヲ以テ下見セラル。
十七日ハ前日ニ引カヘテ一天晴朗タリ然レ共左ノ人氏ノ見分アリタルニ過ギズ。

木村理事案内ヲナシ建碑式追善会ノ育二十八日ト定マリタル次第ヲ告ゲ
一々説明スル等頗ル斡旋ニ力ム。氏名次ノ如シ

八木理夷　本間理仁　山本理良　岩村桃谷　小川理香　小森理公　小川理鶴　早出理秋

次上

案内書分

多数
同伴

六月二十七日生込
六月廿八日午前十時より午後四時迄（晴雨共）
除幕式午前十時
会場浄土院

右原生長家元功勞有建碑除幕式並追善會

從隨

右相當ニ申振向萬障御繰合セノ上御参会有之度御願致し候此段御案内申上候
恵京市左応商会　松應會

招待状

謹啓時候益々御清穆奉慶賀候陳者此度本会役員ハ

中興松應斎安藤原宇先生之墓碑修理並ニ家元松応斎及
松応斎家御門弟之建碑を愛起致され家潮く過般成
就致され候ニ付来る二十八日建碑除幕式を兼ね生花追善
会成相当御申出同御参拝中高雅ニ御臨席賜ハ
度御一報仕候本会ハ簡略ニ御招待申上候
御招待状を差出候間御参会を給はり度御願申上候

大正九年六月

愛起人（イロハ順）

元老　戸川理正
玉川理調

古流生花
松應會
梶川理仙

理事　池上理谷
〃　加藤理所
〃　木村理筏
幹事　石塚理耀
〃　小川理鶴
〃　佐藤理界
〃　高橋理登女
〃　宇佐川理悦
〃　塚原理鋼
〃　山本理良
〃　小林理香
〃　鈴木理言
〃　早出理秋
〃　佐藤理宏
〃　二世島田理鶴
〃　本間理仁
〃　小川理香
〃　横山理晋
〃　田辺理司
〃　村尾理花
〃　井上理蝶
〃　八木理爽
〃　小森理公

岩村吉太郎　　林宇右衛門

佐吏　殿

追而
場所は浅草区栄久町富坂橋際浄土宗浄念寺ニ有之候
（電車蔵前又ハ栄久橋下車）
時間ハ　建碑除幕式　午前十時
　　　　追善法要　同十一時
当日ハ準備之都合モ有之候間[illegible]

賀之有之所一報有致度

右招待狀ノ如シ

松応斎家元
三世 松川斎理鶴
平松安三郎（金沢市青草町）
花友会幹事 同 直彦 三菱銀行 松井理吉 同所属 家元三家名誉顧問及名誉会員 同所居 同上
松盛斎家元
書家 松友斎家元
紫田機堂（下谷区昌平橋北町一ノ廿四）
石工 高橋金平（下谷区昌平橋北町三十四）
植木職 宮島美代吉（向島堀切六ノ一）

花 豊（神奈川区西原町十五）
花 太（下谷区下車坂十九）
花善 三（日本橋区檜物町）
雑誌発行 元良作（麻布区南部屋町二九）
写真師 佐々木宗蔵（本郷区新花町九三）
外六新聞社

以上

更ニ松応会員ニ送ラルモノ次ノ如シ

松友斎門弟 家元及ビ松応斎家切望者之建碑工事モ滞リナク去ル廿日完成相成ル付来ル二十八日之ガ建碑式並ニ追善会ヲ相営ミ式場ニハ

本会員及ビ社中ノ生花ノ陳列実事ニ決定致シ候間万障御繰
合ノ御来会有之度御案内申上候尚ホ準備旅費ヲ有之候ハバ御
来会ノ有無及ビ会費相年ノ御社中ノ人数ヲ来ル三月六日迄
御報願度候　敬具

大正九年二月三十一日

神田区末広町二十一番地
松應會

一六月二十七日　生花（花器花名各自御携帯ノ事）　晴雨共
一　二十八日　午前十時陳幕式同十一時迄　華法要
一場　処　浅草寺久町富士横町清念寺（電車ハ馬道又ハ浅草橋下車）
一会　費　金壱円也　特別会ニハ記念写真弁当茶菓ヲ呈ス
但シ第二第三第四又ハ従覧セラレン方ハ第二第三第四ヲ呈ス

又御案内ナキ方ハ第二第三第四ヲ呈ス

以上

松應會員宛（各通）

建碑除幕式及追善会

準備急ノ成リテ予定ノ如ク六月二十七日生花ニ二十八日建碑除幕式
及ビ追善会ヲ開キ行ハレ又式場黒白幕ヲ廻ラシテ天幕高ク張リ卓
子椅子ナド同意セラレテ茶菓卓上ニ列ラリ賑ヒ定刻トナルヤ家元及ビ令孫
薫子嬢ニ元老西園寺公ト来賓等定メノ席ニ着キ会集忽チ
幕外ニ溢ル（此ノ光景ニシズニ入ル）此ノ時清念寺住職石田海嶺氏衆僧ヲ率
テ碑前ニ進ミ一巻ノ懐ロヨリ取出シテ音吐朗々ヒヲ宣疏ス（其ノ光景ニシズニ入ル）

忽ちこれを幕の家元令孫薫子嬢の手ゝりて傳ヘ一基立所に裏の
前に開展し来列者に順次各〻一枝の花を手向ケて式を了れり石田
海嶺氏碑前の宣疏及び某寳氏の左の如し

宣疏

一六二

文化苦を離け樂を求むるは實に生靈の常情なり
穢を厭ひ淨を欣ふは是れ出離の本志なり蓋し先亡
の心たる譬へば百千の燈を一室の中に點じて燈々相照し
光明周徧するが如し彼此心と不混不離俱に法界に徧
く無障無礙なり是に因て念佛廻向すれば則ち所として
通せずと云ふ事なし若し然れば廻向なしと雖とも
復通ずるやいなや曰く然らず譬へは百千の人の如く
呼ハ一ヲ一應と呼ヘハ總ヲ總應ず不呼俱に不應廻向と
亦是くの如し廻すれは則ち通じ不廻則ち不通幸
なる哉今日松庵会会員一同は祖安藤京宇居士及
古流建功者の為めに建碑除幕の式典を挙行す
るに当り一瞥一礼の功以て早く安養の樂邦に歸
り速に無上菩提を證せん

大正九年六月廿八日

来賓氏名

松應齋家元令孫薫子嬢、二世松川齋現鶴
松盛齋家元、松藤齋家元、吉岡理秀、関理

一六三

葉、天野理志、松村理節、小川理香、松本理孝、小峰理貞、松井理正（詳席前ニ出ス）渡辺理章（同上）鈴木理宇（已物ヲ寄セ本人不来）相馬理岡（同上）関直房（同上）花太、花喜三（花太代理）花豊、柴田機堂、高橋金平、宮島美代吉、平元良作、佐々木宗蔵、黒田理律、都新同記者

ノ二十七氏ナルガ其ノ内碑前ニ着席シテレンズニ入リタル人々ハ松応斎家元、令孫、戸川理正、玉川理調、堀川理仙、二世松川斎理鶴、早出理秋、佐藤理宝、加藤理竹、松盛斎家元、松藤斎家元、吉岡理秀、関理章、天野理志、松村理静、小川理香、松本理孝、小峰理貞、柴田機堂、高橋金平、宮島美代吉、花豊、花太、平元良作

ノ二十四氏ナリキ、而シテ除幕式終ルヤ会員ノ紀念撮影ヲ行ヒ次デ追善會ヨリ移ル

追善法要ハ筆筆ニ始マリ住職石田海嶺氏僧十二人ヲ率ヒテ讀経シ家元、令孫、幹部、来賓参列諸氏ノ焼香アリ（此ノ光景ハ次ニ入ル）テ荘厳裡ニ法要ハ勤行セラレ畢ンヌ、法要了ルヤ書院客席間ニ於テ来賓諸氏ニ配膳シ、元老理事、幹事、配膳ノ間ヲ幹旋大ニ努メ後起人一同ノ来賓ニ対スル謝詞アリテ茲ニ其ノ終末ヲ告ゲヌ

発起人一同ハ家元、令孫、石田海嶺師、柴田機堂、高橋金平、平元良作ノ諸氏ト共ニ斯ノ挙ヲ

紀念スベク碑前ニ於テ撮影シタリ

手向ノ花ハ来賓及會員諸氏ノ生花ヲ記スヿ

次ノ如シ

本堂内陣前手向ノ花

夏　椿　左本手　青竹筒

白小菊　右本手　仝

白菖蒲　右本手　仝

本堂之右側

黄菊　左中流

福蘭　右本手

槙　右本手

白菖蒲　右本手

家元宗名業顧問　松壮斎佐藤理宝

家　元

顧問　松景斎石塚理耀

会設　松芳斎　石丸理光

補佐　松梅斎　小川理香

家元宗名業顧問　松廣斎　梶川理仙

会設　松女斎　横山理蕃

菖蒲　右本手

白小菊　右本手

菖蒲　右本手

白小菊　左本手

黄菊　右流

睡蓮

菖蒲　右本手

葉牡丹　左本手

桔梗　左本手

笹百合　右流生

菖蒲　右本手

白石榴　右本手

家元宗名業会設

会頭　松花斎加藤理所

顧問　松涛斎日根野理君

皆師　松吟斎小川理鶴

補佐　松声斎岡本理俊

補佐待遇　松琴斎村尾理花

中伝　松杉斎岩村理桃

中伝　松韻斎松崎理久

会頭　松耀斎樋口理定

奥伝　松耀斎田川理孝

顧問　松耀斎武本理公

師範　松美斎勝元理景

松耀斎山野理禎

太閤睡蓮

白菖蒲　左中流
葛葉蘭　左本手
菖蒲河骨
朝鮮模　右受流
菖蒲　右本手
黄菊　右本手
菖蒲　右本手
葉蘭　左本手
菖蒲株分
桔梗　右流生
杜水　左本手

一六八
皆伝
師範
醫問
松竹斎八木原玑長
松華斎高橋理元
松喜斎山本玑良
変元三家名鑒醫問
松月斎早出理秋
松茂斎山本玑幸
師範
松旭斎武田玑勇
松康斎諸岡玑夏
皆伝
松景斎山口玑菊
松悦斎久保田玑富
補佐
松雨斎小森玑公
松風斎永見玑菊
師範
松吟斎福田玑訂

黄菊　右本手
菖蒲　仝
類　左本手
黄菊　右本手
仝　左本手
模。ガンピ。菖蒲。三重
河骨　右本手
黄菊　仝
模。桔梗。小菊。三箇重合
白菖蒲　右本手
菊　仝
虎モミ小菊

補佐
醫問
松左斎奥村玑鶴
師範
松雪斎鈴木理言
皆伝
松月斎竹田理春
補佐
松香斎重田理誠
皆伝
松鶴斎西村理常
醫問
松清斎吉岡理鶴
師範
松琴斎塚原理岡
松寿斎中島理文
皆伝
松巫斎多田理元
補佐
松峰斎和田理勇
会頭
松陸斎八木理爽
中伝
松静斎益部理封

一六九

ごく　右本手
キヤラ木、トコナツ　二重
鴨葉蘭
イブキ。小菊。トコナツ　二ノ置合
虎モミ。黄菊
エンコー杉　右受流
菖蒲。サンザン。
黄菊　白菊　桔梗　三筒重合

本堂左側

虎モミ
トコナツ。海芋置合
泰山木　左本手

一七〇
講　松誠斎　鈴井理政
中伝　松豊斎　塚野理幸
　　高嶋理千代
　　松峰斎　田中理光
　　松栄斎　比岡理永
　　見玉理茂
　　山口理康
　　山田理汶
　　松敏斎　車谷理柳
　　松元斎　米山理春
　　中島理鳥

万年青　仝
ごく　右本手
ぼけ　左中流
菖蒲様分
仝　仝
桔梗　右中流
葉らん　左本手
イブキ、大和百合トコナツ、三重
松木　左本手
鴨ツメ、胆遠
菖蒲株分
黄菊　左本手三十三輪

仝　池田理静
師範　松悦斎　島田理柳
中伝　都筑理房
補佐　松堤斎　井上理蝶
師範　松喜斎　後藤理勝
補佐　松林斎　高橋理登安
中伝　石田理民
仝　栗田理要
師範　松登斎　高山理文
会頭　松鶴斎　田辺理司
中伝　松志斎　近藤理鶴
家元家令　松逸斎　池上理谷

菖蒲 株分
菊 左本手
菖蒲 株分
鳶尾 河骨
桔梗小菊 里合
達 左本手
南天 右本手
附書院ノ間、床
白桔梗 左本手
白小菊 右本手
同室客席
菊

青竹筒
仝

一七二

中伝 松操斎 原田理恒
仝 松幸斎 飯田理凡
奥伝 松月斎 中凡理昇
皆伝 松碧斎 小林理勢
会頭 松統斎 小野理貞
仝 松統斎 内田理長
補佐 松公斎 宮崎理統

松應齋家元
松藤斎 家元

のきつ
ぶ〳〵
菊いと
糸ひば
菊

以上

家元三家名簪顧問
家元三家名簪会頭
家元三家名簪顧問
家元三家名簪会頭

松威斎家元
吉岡理秀
松本理孝
天野理志
村理静

而シテ是ニ要シタル費用ト寄附額並ニ氏名ヲ次ニ追テ記スルヿ次ノ如シ

收支計算

総收入金弐仟弐百参拾四圓也

一七三

内譯

一金弐仟零〻弐圓也　寄附総額

一金壱百拾四圓也　来賓供物

一金壱百拾八圓也　當日參拜者會費

総支出金壱仟六百拾九圓八拾錢也

内訳

一金參拾六圓也　建碑趣意書

一金拾弐圓也　受取、案内切符

一金九圓七拾五錢也　印半天袖口付

一金六百六拾八圓弐拾錢也　墓碑修理並建碑費

一金弐拾圓也　封筒半切郵税

一金壱百四拾弐円弐拾五錢也　式日迄ノ諸雜費

一金壱百圓也　植木屋

一金壱百四拾壱圓也　淺草寺寄附経料並料并当諸費

一金拾弐円也　位牌

一金弐拾八円也　除幕、装飾費

一金弐拾円也　祝儀

一金參百九拾壱円六拾錢也　料理并當代

一金參拾九円也　當日諸雜費

以上

収支差引金六百拾四圓弐拾錢也　剰餘

寄附者氏名

發起人

一金拾円や　元老　松濤斎　戸川理正（姓名イロハ順）
一金拾五円や　同　松廉斎　梶川理仙
一金拾円や　同　松柏斎　玉川理調
一金弐拾五円や　理事　松幽斎　池上理谷
一金拾円や　同　松月斎　早出理秋
一金拾円や　同　松花斎　加藤理竹
一金弐拾円や　同　松壮斎　佐藤理寶
一金貳拾五円や　同　松如斎　木村理筏
一金拾円や　同　松川斎　島田理鶴
一金拾円や　幹事　松景斎　石塚理耀

一金拾円や　同　松川斎　本間理仁
一金拾円や　同　松吟斎　小川理鶴
一金拾円や　同　松梅斎　小川理香
一金五円や　同　松美斎　勝元理景
一金貳円や　同　松友斎　横山理蕃
一金拾五円や　同　松林斎　高橋理登女
一金拾円や　同　松鶴斎　田辺理司
一金拾円や　同　松琴斎　塚原理綱
一金八円や　同　松琴斎　村尾理花
一金拾円や　同　松公斎　宇佐川理統
一金拾円や　同　松堤斎　井上理蝶
一金拾円や　同　松壽斎　山本理良

一金拾四匁　同　松隆斎　八木理爽
一金拾四匁　同　松窓斎　小林理香
一金拾四匁　同　松雨斎　小森孔公
一金拾四匁　同　松雫斎　鈴木理言

一金拾五四匁　岩村吉太郎
一金拾五四匁　林宇右衛門

以上

一金壱百四匁　家元
一金拾四匁　平松亥三郎（金沢市青草町）
一金五四匁　中条又二（長崎市上町原町千田野理瑞笑善）
一金五四匁

一金五四匁
一金五四匁
一金五四匁
一金五四匁
一金五四匁
一金五四匁
一金五四匁
一金五四匁
一金五四匁
一金五四匁
一金五四匁

松卿斎五十子理悦
曽田為治郎
米谷喜一郎
水野定子
伊藤くゝ子
西村千代子
松旭斎善野理泰
石丸歌代子
青山理静
大島郁子
遠藤理清
小野順代

一金弐四ヤ　渡辺松子
一金弐四ヤ　沢田むら子
一金弐四ヤ　岡本とし子
一金壱四ヤ　田口祝子
一金壱四ヤ　八十島とめ子
一金壱四ヤ　本明操子
一金壱四ヤ　馬場安三郎
一金壱四ヤ　師岡花枝
一金壱四ヤ　南沢きよ子
一金壱四ヤ　田中とし子
一金壱四ヤ　高橋幸子
一金壱四ヤ　渡辺あき子

一金壱四ヤ　中島郁子
一金壱四ヤ　山口義美子
一金壱四ヤ　山口とよ子
一金壱四ヤ　山本郁子
一金壱四ヤ　千田あき子
一金壱四ヤ　薮　蝶子
一金壱四ヤ　伊森冬子
一金壱四ヤ　近藤春子
一金壱四ヤ　吉松清子
一金弐四ヤ　横山理雷社中
一金弐四ヤ　横山理稲
大石

一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金弐四〆
一金五四〆
一金壱四〆
一金弐四〆
一金弐四〆

以上

元老戸川 理正社中
松寛斉螺良理愛
松有斉市川 理養

理事 木村理筱帯
玉村理茜
日根野理君
内藤みち子
西山 常
大石内 春子
岡本理松
鈴木みね子

一八二

一金弐四〆
一金弐四〆
一金弐四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆

小林理香社中
松樂斉小林理梅
松仙斉小林理葉
松桂斉土肥理芳
曙 城 泉子
石田安子
堀越美代子
堀越ふく子
川島貞子
橋本多井子
橋本多田子
松浦聿子

一八三

一金壱両也
一金壱朱也
一金拾朱也
一金拾朱也
一金拾朱也
一金五朱也
一金参朱也
一金参朱也
一金弐朱也
一金弐朱也
一金弐朱也
一金弐朱也
一金弐朱也
一金弐朱也
一金弐朱也
一金弐朱也
一金壱朱也
一金壱朱也
一金壱朱也
一金壱朱也

尾作志摩りよ
田村はまよ

理事島田理鶴社中

飯岡理道
内田理盤
河合理芳
宇津理寿
宇津理達子
小財理暁
浅野理富
鈴木理竹
新藤理芳
藤田理賀

南
渡辺理仙
大川理楊
田中理泉
湯浅理近
前田理友
三田理公
三枝理道
三枝理江
林寿理春
今井理子
北原理彦
高田理德

山田氏好　一金壱円
井上氏章　一金壱円
横井氏哥　一金壱円
登村つる子　一金壱円
長谷川氏静　一金伍円
天野氏信　一金弐円
小宮氏雷　一金弐円
秋山氏泉　一金弐円
秋山氏清　一金弐円
山田氏朝　一金弐円
加藤氏道　一金弐円
長谷川氏秀　一金壱円
高瀬氏扇　一金壱円
夏林氏貞　一金壱円

幹事本間理仁社中

織茂氏鳳　一金弐円
本間てる子　一金弐円
北島氏操　一金弐円
黒田氏聡　一金弐円
上山氏長　一金弐円
松浦氏業　一金弐円
星野敏子　一金壱円
（米浪愛子　全　新野あい子　峯子　谷ふい子　漆子）

一金壱四匁
一金壱四匁
一金五四匁
一金参四匁
一金弐四匁
一金弐四匁
一金弐四匁
一金弐四匁
一金弐四匁
一金弐四匁
一金弐四匁

水下シゲ子
大瀧玉枝
川邊秀枝
近藤邦枝
関口藤枝
村井燕枝
秋山沢枝
北山香枝
門馬定枝
浦川理瀧
田中枝関
鈴木枝吟

一金壱四匁
一金壱四匁
一金壱四匁
一金壱四匁
一金壱四匁
一金壱四匁
一金壱四匁
一金壱四匁
一金五四匁
一金壱四匁
一金壱四匁
一金壱四匁

島野理芳
石原枝初
村山枝郷
大明龍子
寺見枝勝
伊藤枝勝
中原枝勝
中原枝幸
阿部枝泉
中田はなよ
折原はなよ
長濱はなよ

一金壱円也
一金壱円也
一金五円也
一金弐円也
一金弐円也
一金壱円也
一金参円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也

一金壱円也
一金参円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金参円也
一金参円也
一金弐円也
一金弐円也
一金弐円也
一金弐円也

笹部きみ子
青島まつ子
桜井理條
佐座玖直
井上玖花
荒井愛子
三宅玖仟
三上花子
三上瑞子
村山貞子
村山春子
谷内きくゑ

元老玉川玖調社中

山内定子
篠藤理香
林玖梅
島田玖常
石井秀子
岡野玖操
高谷玖清
外山玖照
岡玖豊
丸山玖清
泉玖貞

二分　二分　二分　二分　二分　二分　二分　二分　二分　二分　二分　二分
三　三　三　三　三　三　三　三　三　三　三　三
反　反　反　反　反　反　反　反　反　反　反　反
四　四　四　四　四　四　四　四　四　四　四　四
ヤ　ヤ　ヤ　ヤ　ヤ　ヤ　ヤ　ヤ　ヤ　ヤ　ヤ　ヤ

二分　二分　二分　二分　二分　二分　二分　二分　二分　二分　二分　二分
三　三　三　三　三　三　三　三　三　三　三　三
反　反　反　反　反　反　反　反　反　反　反　反
四　四　四　四　四　四　四　四　四　四　四　四
ヤ　ヤ　ヤ　ヤ　ヤ　ヤ　ヤ　ヤ　ヤ　ヤ　ヤ　ヤ

宮佐賀小字若宮中吉須小波
元三　鬼崎涙水川谷水西永田林谷
　　秋秋秋秋秋秋秋秋秋秋
　　受受園園芳美鶴芳右

中高池小峰上小新竹村熊倉
村橋田林田地林宮林山谷田元三
伴　秋秋秋秋秋秋秋秋秋秋
子　曳　沢静宮美新福子枝宝

一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也

坂本　一九四
宮根玖信
中島
宮沢つね子
小林彦三郎
大塚玖翠
岩瀬玖恵
佐藤たみ子
田中うめ子
飯田ふく子
佐々木理曄
小林玖秀

一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金五円也
一金弐円也
一金弐円也
一金弐円也
一金弐円也
一金弐円也

杉本理智
永村玖照
清水玖渓
田村玖瑋
島崎玖香
石川理周
小泉理清
石渡さわ子
石崎
市川花子
小山あい子
石井千代子